

**第 3 期下野市地域福祉計画
第 3 期下野市地域福祉活動計画**

団体アンケート・ヒアリング調査 報告書

令和 3 年 10 月

下野市社会福祉協議会

目次

I. 調査の概要	1
（1）調査の目的	1
（2）実施概要	1
（3）調査票回収状況	1
（4）報告書を見るにあたっての注意点	1
II. 調査票集計結果	2
（1）団体・事業者について	2
（2）団体・事業者の活動について	3
（3）活動を通して見える地域の状況について	12
III. ヒアリング調査の結果	25
IV. 調査票	39

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、「第3期下野市地域福祉計画及び地域福祉活動計画」の策定にあたり、日頃より地域福祉の推進にご協力頂いている市内の団体・事業者の皆様に関する現状や課題を把握し、計画策定の基礎資料とするために実施しました。

(2) 実施概要

調査の実施にあたっては、はじめに郵送配布・郵送回収による調査票での調査を行い、その後一部団体について詳細な聞き取り調査を行う形式で実施しました。

	調査票での調査	聞き取り調査
調査対象	市内で活動している団体・事業者、石橋高校等 69 団体	回答のあった団体・事業者のなかから分野別（高齢・障がい等）に6団体
調査手法	郵送配布・郵送回収	オンライン会議・電話でのヒアリング
調査期間	令和3年7月13日～8月6日	令和3年8月25日～31日

(3) 調査票回収状況

発送数	回収数	回収率
69 件	56 件	81.2%

(4) 報告書を見るにあたっての注意点

1. 図表中の「n (number of case)」とは、その設問の回答者数を表しています。
2. 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
3. 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答比率の合計は100%を超える場合があります。
4. 図表中「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
5. 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
6. クロス分析において、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
7. 高校関係者への調査においては一部の設問を抜粋しているため、n（回答者数）が設問によって異なります。なお、回答数56件の内訳は、高校関係者の回答が2件、その他が54件となっています。

II. 調査票集計結果

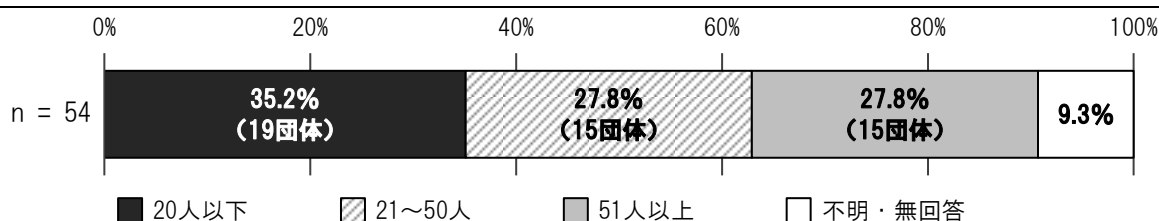
(1) 団体・事業者について

問1 貴団体・事業者について、以下の内容をお答えください。

【職員数・会員数】

(数量回答)

団体・事業者の職員数・会員数についてみると、「20人以下」が35.2%、「21～50人」が27.8%、「51人以上」が27.8%となっています。

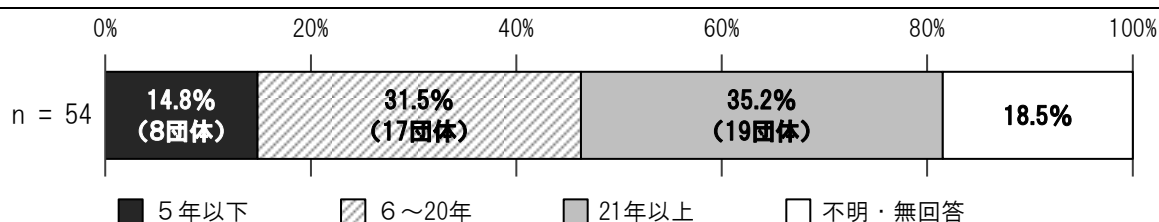


問1 貴団体・事業者について、以下の内容をお答えください。

【活動年数】

(数量回答)

団体・事業者の活動年数についてみると、「5年以下」が14.8%、「6～20年」が31.5%、「21年以上」が35.2%となっています。

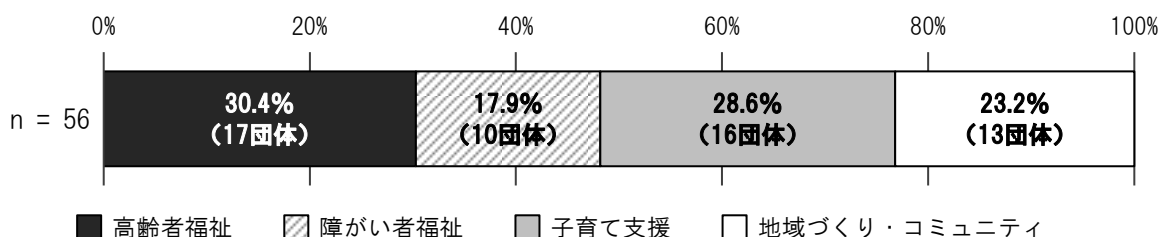


問1 貴団体・事業者について、以下の内容をお答えください。

【活動内容】

(記述回答)

団体・事業者の活動内容についてみると、「高齢者福祉」が30.4%、「障がい者福祉」が17.9%、「子育て支援」が28.6%となっています。また、以上にあてはまらない地域活動・地域のネットワークづくりやボランティア振興等について活動している「地域づくり・コミュニティ」が23.2%となっています。



(2) 団体・事業者の活動について

問2 貴団体・事業者の活動の中で、地域と一緒にやっていることや、地域に向けて行っていることはありますか。(記述回答)

ふくしフェスタや、市内で開催されるお祭りなどのイベント、地域における交流活動、各団体が地域に向けて行っているボランティア活動や、見守りの支援などについても回答が多くありました。また、相談、周知や情報発信、受け入れや派遣についても回答をいただきました。

意見の内容は下記の通りです。

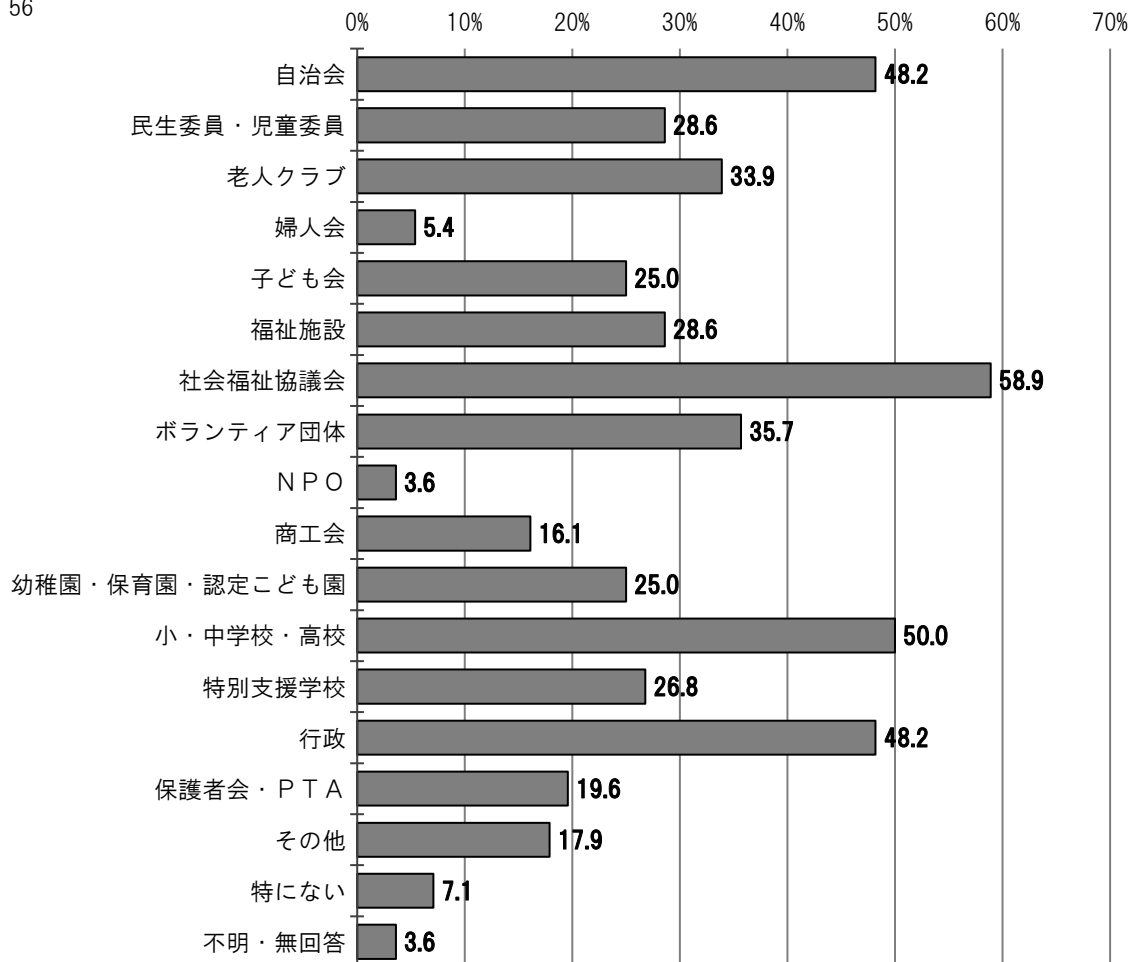
イベント	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災訓練、各種スポーツ大会、芋煮会、BBQ 大会。 ● 自治会行事やコミュニティ行事への参加。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 各障がい児団体のスポーツ交流事業等年に1～2回行っている。イベントとしてはふくしフェスタなどの店舗での参加。 ● 子どもたちとのレクリエーション。 ● ふくしフェスタへの参加。ふれあいふくし運動会への参加。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援センターや一時預かり利用者向けの運動会や講座(子育てなど)。 ● 町内で行われるイベントなどへ積極的に参加。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 小・中学校を巻き込んだ地域見守り活動や夏祭りに生徒さんたちの参画。 ● レクリエーション大会、お茶しよう会。 ● ①広域対象事業 1)みんなのマルシェ 2)ファミリー音楽会。 ②地域限定事業 1)小学校・児童館での交流会 2)凧揚げ・餅つき大会 3)高齢者支援事業(ゴルフ交流大会、グラウンド・ゴルフ交流大会、卓球交流大会)。 ③共同開催事業 1)体験の風を起こそう(家庭の日応援)2)映画自主上映会。 ● エコライフ祭り・お達者クラブ納涼会・ふれあいふくし運動会・しもつけ福祉大会・赤い羽根共同募金・公民館まつり・市スポーツ大会。 ● 天平の芋煮会①野菜の下ごしらえ②盛り方や食器回収③ボランティア連絡協議会イベント部によるバザー・模擬店開催及びボランティア連絡協議会のPR。 ● ①祇園祭に供い「コミセン夏祭り」7月。②「グラウンド・ゴルフ大会」11月。③「花見会」3月。花見会と同時に利用者の「発表会」を行う。 ● ふくしフェスタ①社会福祉協議会の各ブースに協力②ボランティア連絡協議会模擬店及びPR。
交流	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域交流の場として施設を提供予定。 ● 育成会との交流を深める活動の推進。他の老人会との合同旅行などの推進。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● ふくしフェスタの参加(バザー、模擬店)。 ● 老人クラブとの交流。 ● 利用者との交流。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ボランティアの方々との交流。①絵本読み聞かせボランティアの方が月二回来園。②さつまいも栽培・収穫の指導。③国分寺支援学校高等部との交流(R2年度はコロナのため、対面での直接的な交流は中止したが手紙などでの交流を継続)。 ● 世代間(先輩・後輩)との交流を図る活動。挨拶の習慣を身に着ける活動。決まりを守ることを身に付けられる活動。整理整頓のできる子どもの育成活動など。 ● 園庭開放・地域行事への参加・地域交流・公民館行事参加。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉教室の一環として、国分寺特別支援学校と交流事業を実施。ただし、昨年度はコロナ感染予防のため中止。今年度も検討中だが例年通り実施することは難しいと考えている。

相談	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民や民生委員に向けた啓発活動、市民グループと一緒に引きこもりの相談会を実施。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園、幼稚園などへ訪問し障がい児の対応の相談・助言。就学相談や就学後の保護者からの相談を受け、サポートセンターなど関係機関につなぐ。
周知や情報発信	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ふれあいサロンや認知症カフェ、家族会などの活動支援及び、活動内容について市民に向けて情報発信している(広報紙やFM ゆうがおなど)。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛の絵はがき事業への協力呼びかけ。特別支援学校等への案内。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● サロンや民生委員定例会等での広報活動及びボランティア会員の募集。 ● 共同募金(街頭募金)①大型スーパーに協力依頼②一般市民に直接呼びかけ③ボランティア連絡協議会のPR。
ボランティア・見守り	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 市及び地域老人クラブに加入して、その事業に参加。地域ライオンズクラブと共働で公園の花の手入れ(年間活動)。地域学校の教育、交通などの見守り活動。昔遊びなどの指導協力。 ● 社会奉仕の日(9月)・公園内、および周辺道路の清掃、ゴミ収集など。 ● 美化活動、見守り活動。 ● 公園の清掃。小学校登下校児童見守り。 ● 学童パトロール実施(ラジオ体操兼務)。 ● 小学校通学道路などの清掃、安全確認。下校時刻予定表を参考にウォーキング買物等通学道路付近の危険物などチェック実施。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校での民話語り活動。 ● 大人に向けての民話語り:市内サロン(定期的に又不定期で)4か所、市内外の老人施設・デイサービスでの活動(婦人活動団体も)。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● マクドナルドハウスへの寄付や七夕飾りなど子ども達と共にボランティア活動。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● スクールガード・学校ボランティア(児童館・幼稚園・小学校)の昔遊び。生涯学習情報センター祭り、自治医大薬師祭、ドイツ大学生との交流などの昔遊び。地域美化(花壇・清掃)。 ● 地域の小学生を対象とした肘検診を兼ねた野球教室。
受け入れや派遣	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ふれあいサロンや老人クラブなどに対し、介護予防や認知症、就活などをテーマに専門職を派遣し、出前講座を開催。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学生の職場体験の受け入れ。地域の学生の実習の受け入れ。 ● 障がいの理解促進事業として市民、関係機関職員を対象に研究会開催。

問3 貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係
がありますか。
(単数回答)

協力関係がある団体や機関等についてみると、「社会福祉協議会」が 58.9%と最も高く、次いで「自治会」
「小・中学校・高校」「行政」が約5割となっています。

n = 56



【活動内容別】

活動内容別に交流や連携、協力関係がある団体を見ると、いずれの活動内容でも「社会福祉協議会」が5割以上となっています。

一方で、「自治会」は<高齢者福祉><地域づくり・コミュニティ>で高いものの<障がい者福祉><子育て支援>で低くなっています。

また、「ボランティア団体」は<地域づくり・コミュニティ>では61.5%と高くなっていますが、他の活動内容では3割以下となっています。

問3貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。 × 活動内容

%		問3貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。									
		n	自治会	民生委員 ・ 児童委員	老人クラブ	婦人会	子ども会	福祉施設	社会福祉協議会	ボラン ティア 団体	NPO
活動 内容	全体	56	48.2	28.6	33.9	5.4	25.0	28.6	58.9	35.7	3.6
	高齢者福祉	17	82.4	29.4	47.1	5.9	35.3	11.8	64.7	29.4	5.9
	障がい者福祉	10	20.0	10.0	10.0	-	10.0	20.0	60.0	30.0	-
	子育て支援	16	12.5	31.3	25.0	6.3	6.3	43.8	50.0	25.0	6.3
	地域づくり・コミュニティ	13	69.2	38.5	46.2	7.7	46.2	38.5	61.5	61.5	-
		n	商工会	幼稚園・ 保育園・ 認定こども園	小・中 学 校・高 校	特別支援 学校	行政	保護者 会・PT A	その他	特にない	不明・無 回答
活動 内容	全体	56	16.1	25.0	50.0	26.8	48.2	19.6	17.9	7.1	3.6
	高齢者福祉	17	-	11.8	41.2	5.9	29.4	-	17.6	5.9	5.9
	障がい者福祉	10	20.0	30.0	50.0	50.0	80.0	30.0	20.0	10.0	-
	子育て支援	16	31.3	37.5	62.5	31.3	43.8	43.8	12.5	12.5	-
	地域づくり・コミュニティ	13	15.4	23.1	46.2	30.8	53.8	7.7	23.1	-	7.7

(網掛けは上位3位)

【具体的な活動内容】

問2「地域と一緒にいること」と同様に他団体との交流・イベントについて多く回答をいただきました。

また、相談、周知、情報交換、事業での連携、場の提供、交通安全・見守り、小学校との連携についても回答をいただきました。

意見の内容は下記の通りです。

他団体との交流・イベント	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会の行事(夏祭り、体育祭、どんど焼き、防犯パトロール)協力。 ● 市民運動会に参加。 ● 育成会(子ども会)との合同交流会活動の推進。他老人会との交流を深め加入促進運動を推進。 ● 自治会、子ども会、婦人会ともに夏祭り、ファミリー運動会、市運動会、新そば祭り、地域コミュニティのグラウンド・ゴルフ大会への参加協力。 ● ①自治会主体の緑化ボランティア、夏祭りへの参加。②コミュニティ主催のグラウンド・ゴルフ大会への参加。③ふれあいふくし運動会への参加。 ● 自治会主催の子ども会との交流会。 ● 運動会、盆踊り花火大会、グラウンド・ゴルフ大会、のど自慢大会など。 ● 老人会研修旅行会。 ● 自治会共催の諸行事、夏祭り、キンボール大会、敬老祝賀会、バーベキュー大会等に積極的参加。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 身体障がい者スポーツ。老人会スポーツ。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域コミュニティ主催の盆踊り、歌合戦(お祭り)への参加、交通安全パレードへの参加、消防パレードへの参加、かんびょう祭り、花まつりなどへの参加。参加の依頼があった活動(イベント)へは基本的に参加するようにしている。 ● 団体との交流を進め、地域活動の参加促進活動。施設を訪問し交流を図るとともに、理解を得る活動。自治会活動に子どもたちが参加しやすい環境づくり活動など。 ● 福祉施設など:交流事業。商工会・社会福祉協議会:地域イベント参加。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏祭り・自治会の交流会(年3回開催)・年2~3発行している機関紙・多世代交流を目的としたイベント(老人クラブ参画にて) ● ①みんなのマルシェでは、地域で活動している「演奏・演舞団体の発表」や「福祉施設やキッチンカーによる食品類の販売」など、多種多様な内容としている。②ファミリー音楽祭では、主に栃木県内で活躍しているアマチュア活動家を招いて、世代を超えて音楽を「楽しむ・楽しめる文化」を地域に根付かせることを目指している。 ● ふくしフェスタで協力し合って、交流を深める。
相談	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民相談(進路相談を含む)自立支援協議会。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園の第三者委員として、保護者からの相談窓口を担ってくれている。 ● 保護者からの相談に対応し、関係機関との連絡調整。保護者からの相談に対応し、他の事業所の紹介など。関係機関からの相談を受け行政と調整。
周知	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 啓発活動。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動内容の周知、ボランティアの募集、情報提供など。 ● チラシ配布などの時、小学校にお願いして児童に渡してもらっている。
情報交換	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 民生委員に各集会に参加してもらい交流情報交換・NPO との交流会(会員)。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼・小・支援学校とは、情報交換・引継ぎを実施。 ● 子どもたちの発達やお母さま方の相談などを受けて行政と連携を取り情報を共有。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動の上で他の活動団体との情報交換や振興を図っている。

事業連携	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症サポーター養成講座の案内や、生活実態把握調査を実施。チームオレンジしもつけの活動を支援。 ● 社協や行政の職員を講師に招き健康・食育・栄養・交通安全・詐欺予防教室の開設。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛の絵ハガキ運動などに協力。 ● 音訳体験講座の開講。利用者との交流。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 園内における行事や奉仕活動への参加、協力。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会長に役員になってもらい、行事の内容や進行など一緒に活動。 ● 事業開催に際して運営支援及び参加者募集、並びに実演参加など、開催プランに沿って得意を活かした協力関係がある。 ● ボランティア団体への後援活動など。 ● 団体を立ち上げるにあたり、すでに他地区で同様の活動を開始している団体に助言をいただいた。その団体とは隣接していることもありお互いに連携・協力し活動。
場の提供	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域交流の場として施設内を案内。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 年数回の会議場所の提供や会議の参加。行政との話し合いの場。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 未就園児親子を対象とした交流事業(園庭開放)。 ● 地域の未就園児の親子に向け園庭開放。
交通安全・見守り	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 登下校の見守り協力。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通安全教室を開催し事故防止活動を図っている。 ● 小学校の登下校の見守り。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域安全ボランティア。
小学校との連携	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校での昔遊び交流。 ● 小学校にて昔遊びの指導、竹馬、お手玉、あやとり、輪投げなど。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休み中の雑布作成と小学校への寄付。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 「集まれちびっ子」行事・小学校 PTA 行事での昔遊び。児童館・幼稚園(2か所)小学校(2校)の昔遊び。

問4 貴団体・事業者が地域活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。

(記述回答)

メンバーの人材確保・イベント等の参加者の確保では、いずれにおいても新規加入者が少なく高齢化しているやリーダー不足、地域で主体的に活動する意識の低下が課題となっています。

また、コロナ禍の活動への影響については、そもそも活動が行えていないといった状況について多く回答をいただきました。

その他、活動の場、地域の理解・地域との連携、行政との協力、活動地域についても回答をいただきました。

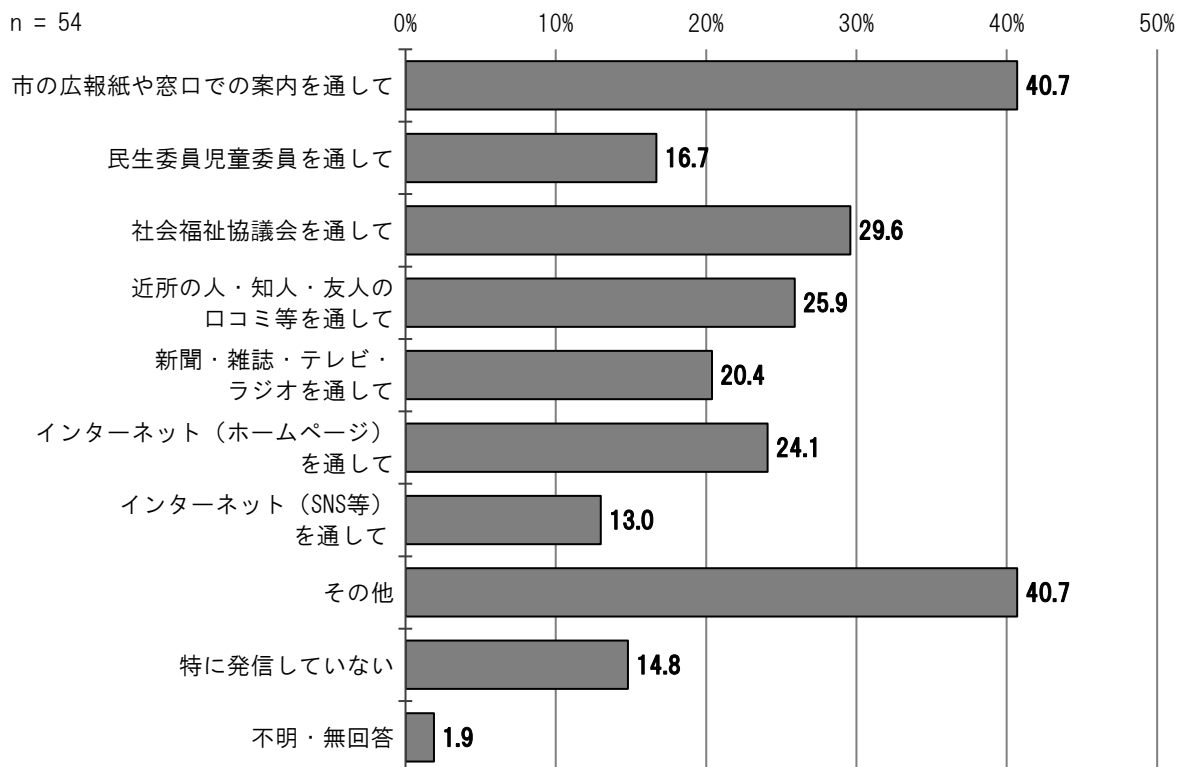
意見の内容は下記の通りです。

メンバー の人材確 保	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動の担い手不足。講座などを実施しても実際の活動の場に結び付けるところまでフォローしないと受講したままで終わってしまう人がいる。地域活動の普及・継続のためには住民の自主性・主体性の向上を図る必要がある。 ● 対象年齢になっても会員に加入しない、役員のなり手が少ない。 ● 会員の年毎の減少(特に高齢化が著しい)。 ● 長寿会内のグラウンド・ゴルフ参加以外の会員が減少。その他各種行事への参加者の減少。 ● 地域内で新規老人会加入者が減っている。会の運営も数年後に変化する。会を退会する方が多い。市の老人会の状況と同様。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化のため仲間を募る事が出来ずとても苦慮している。新人が入会しない。 ● 人が集まらない。 ● 音訳者の養成。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しく入会される方が少ない、また、入られた会員の行事への参加が少ない。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 会員母体である自治会の加入率が低調。活動の軸足を「ラボ活動＝こころみる場・試してみる場」に定め、繋がりがづくりの再構築に取り組んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ①役員・世話役の高齢化：自治会の存在意義が薄れ、今地域がどうなっているかの情報も少なく、世代を問わず直接関係のあること以外はなるべく関わりたくないという姿がある。それでもイベントの内容次第で、多くの世代が「お客さんとして来て」楽しんでくれるものの次の段階には進んでいない。 ②活動資金の不足：母体である自治会の加入率低下は活動資金の確保にも影を落としている。社会環境の変化とともに世代を問わず楽しみ方の多様化が進み、旧態依然とした地域イベントには見向きもされない。工夫を凝らし興味をそそる内容に変えようとすると資金不足が足かせになり、思うようにいかないジレンマがある。 ● 軸となる自治会会長の多数が1交代代なので安定した協議活動が難しい。高齢化が進んでいて自治会脱会者が毎年増えていて今後の推進会活動影響が出ると考えている。 ● ボランティア連絡協議会の加入団体が発足当時は多く、独自の広報も発行し一般世帯配布するなど、活発に活動できていた。しかし、最近は毎年徐々に減少し、今年は14団体である。魅力あるボランティア連絡協議会とするための模索が続く。

参加者確保	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 農家・勤め人が多く老人会活動に関わる意識が薄い。土・日の活動を多く取り入れ意識の向上を図る活動。活動に関わらない人や連絡せず欠席する人が増えてきた。 ● 若い人の入会が少なく、活動する人数が少しずつ少なくなっている。 ● 高齢化の影響で行事参加、奉仕作業など参加協力者が極端に少なくなり、少人数での活動が多く、継続が心配。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 親子での行事参加が多いため、ボランティアにお手伝いしていただけるとありがたい。親も高齢になっているので参加するのが大変になっている。 ● 音訳利用者の拡充。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の参加をお願いする場合の説明。なぜ参加するのか、土曜日に参加をお願いすることへの抵抗感。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 回覧を回しても、参加者が少ない行事がある事。 ● 高齢化に伴い、各行事への出席者が少なくなっている。
コロナ禍の活動への影響	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和2年2月から、コロナ禍で何の活動もできない。 ● 現在はコロナ禍でほとんど人の集まる行事ができない為参画する機会が非常に少ない。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍で、行事などが無くなり、機会が少ないこと。世代をまたいでの交流がなかなか取れないこと。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍で活動そのものができなくなっている（すすく広場 R2 年度中止）。R3 年度は対策を講じながら年度後半から実施予定としたが状況に応じて判断せざるを得ず、直近になるまで開催の決定ができない。 ● 現在はコロナ禍における感染対策の難しさ。人数制限、内容の変更や縮小となることが多い。 ● 現在コロナ禍で活動ができていない。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在コロナ禍での活動が以前のようにできない。地域からのオファーが減少。 ● コロナ禍の中で大勢の方々が集まる事が出来ず、活動を PR する場が少なく、コロナが収束後にはサロン等での PR 活動やボランティア会員の募集を行う予定。 ● コロナ禍のためにすべて中止になっている。毎年行ってきた事業が中止され、再開は可能なのか。
活動の場	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に食事のできる宴会場の場所が減少している。これまで町時代は町バスの活用ができたのが、バス会社が変わり交通費が高くなった。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動の事務処理を行う場所がない(活動回数の増加に伴い事務量も多くなり、自宅以外の場所ですっきりやりたい)。
地域の理解・地域との連携	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会、婦人会、子ども会、その他などから声掛けはない。本来地域の活動他は自治会が中心になってやるべきである。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会保障に含まれない課題案件。教育部門との連携。民間団体との連携。地域の障がい者理解が進まない。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 協力的な方と非協力的な方の差が激しい。関心がない方には嫌な顔をされることも。子どもの声がうるさい…他。
行政との協力	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 小金井空襲の悲惨な歴史を後世に残すことに対して、下野市の取り組みが消極的。新型コロナ拡大で活動自粛せざるを得ない。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 下野社協だよりには毎回目を通してはいるが、どうしても下野市在住の方々が対象となってしまう、なかなかボランティアの紹介には至らない。生徒と地域を結びつけるのは難しいと感じている。
活動地域について	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在の活動については本会のネームについて検討中である。他自治会(地域外)からの問い合わせや依頼があるが、地域名を謳ったため現在はお断り状態にあり、依頼者の声が反映できないジレンマに戸惑っている。

問5 貴団体・事業者では、地域活動情報をどのように発信していますか。（複数回答）

地域活動情報の発信方法についてみると、「市の広報紙や窓口での案内を通して」「その他」が40.7%と最も高くなっています。次いで、「社会福祉協議会を通して」「近所の人・知人・友人の口コミ等を通して」が2割台後半となっています。



【「その他」の内容】

「その他」としてご回答いただいている中では、独自の紙媒体が多くなっています。

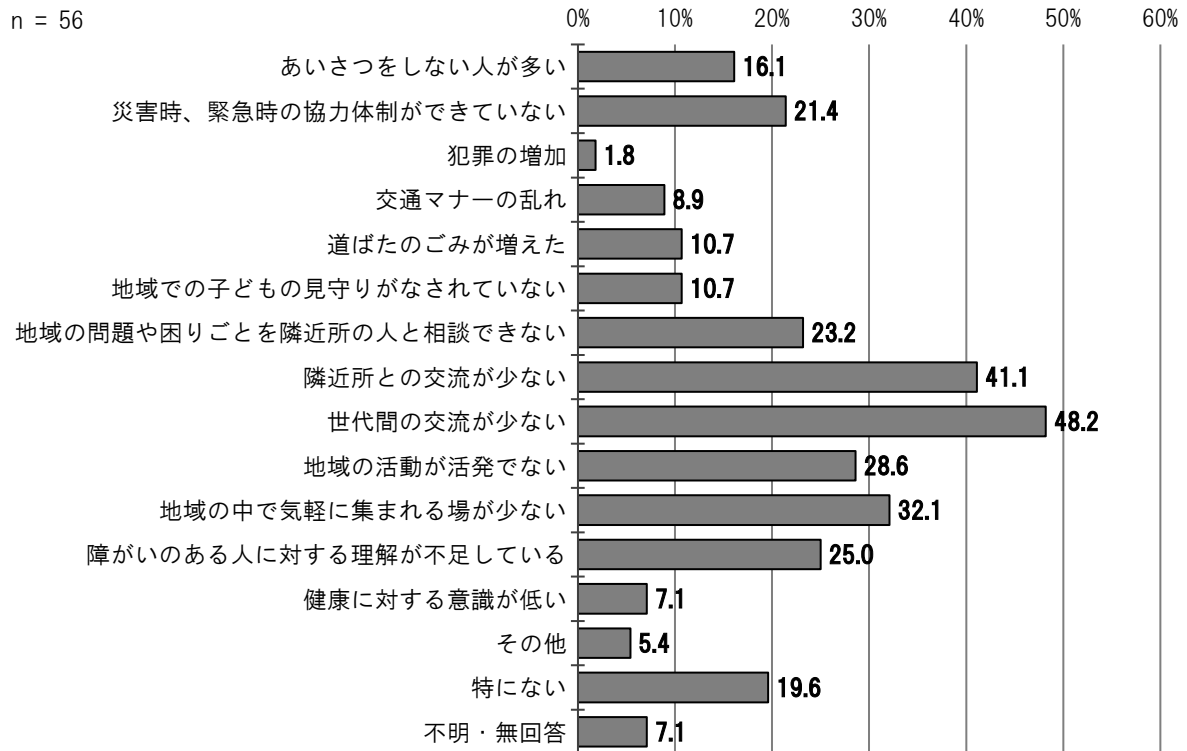
独自の紙媒体	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の情報誌「ゆうゆう便り」。 ● チラシの配布、関係者との会議などで情報提供。 ● 月例紙の発行。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 園だより ● おたより
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 協議会発刊の機関紙(年2～3発刊)。 ● 回覧やチラシの配布。 ● 地域内回覧・チラシ配布など。
メール	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 登録者にメール配信。 ● 園庭開放については、登録者へメールでお知らせ。
公共施設等との連携	高齢	● 地域包括支援センターからの紹介。
	子育て	● 公共施設(公民館、図書館、児童館、社協窓口など)に依頼。
会議の場	地域づくり	● 毎月の例会にて。

(3) 活動を通して見える地域の状況について

問6 活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。

(複数回答)

地域の中で課題に感じることについてみると、「世代間の交流が少ない」が48.2%と最も高く、次いで「隣近所との交流が少ない」が41.1%、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が32.1%となっています。



【活動内容別】

地域の中で課題に感じることに活動内容別にみると、いずれの活動内容でも「隣近所との交流が少ない」「世代間の交流が少ない」は約3割からそれ以上と高くなっています。

〈障がい者福祉〉では、「障がいのある人に対する理解が不足している」が70.0%と高くなっていますが、その他の活動内容では1割台と差がみられます。

問6活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。× 活動内容

%		問6活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。									
		合計	あいさつをしない人が多い	災害時、緊急時の協力体制ができていない	犯罪の増加	交通マナーの乱れ	道ばたのごみが増えた	地域での子どもの見守りがなされていない	地域の問題や困りごとを隣近所の人と相談できない	隣近所との交流が少ない	世代間の交流が少ない
活動内容	全体	56	16.1	21.4	1.8	8.9	10.7	10.7	23.2	41.1	48.2
	高齢者福祉	17	23.5	23.5	-	5.9	5.9	11.8	23.5	29.4	41.2
	障がい者福祉	10	10.0	20.0	-	10.0	20.0	-	50.0	50.0	60.0
	子育て支援	16	12.5	6.3	-	18.8	6.3	12.5	12.5	37.5	31.3
	地域づくり・コミュニティ	13	15.4	38.5	7.7	-	15.4	15.4	15.4	53.8	69.2
		合計	地域の活動が活発でない	地域の中で気軽に集まれる場が少ない	障がいのある人に対する理解が不足している	健康に対する意識が低い	その他	特になし	不明・無回答		
活動内容	全体	56	28.6	32.1	25.0	7.1	5.4	19.6	7.1		
	高齢者福祉	17	41.2	35.3	17.6	5.9	5.9	17.6	11.8		
	障がい者福祉	10	20.0	50.0	70.0	10.0	10.0	-	10.0		
	子育て支援	16	18.8	25.0	12.5	6.3	6.3	50.0	-		
	地域づくり・コミュニティ	13	30.8	23.1	15.4	7.7	-	-	7.7		

(網掛けは上位3位)

【問6のような課題に対して、貴団体・事業者でできること】

情報提供・声掛けについては、日常的な見守りや挨拶、会話から地域活動や支援につなげていくことなどについて回答を多くいただきました。

啓発活動については、障がい者や認知症の理解促進についての回答を多く頂きました。

つながりづくり・イベント参加では、サロン等日常の交流やイベント参加を通したつながりづくりについての回答を多くいただきました。

また、有償ボランティア等による日常生活の支援についても回答をいただきました。

意見の内容は下記の通りです。

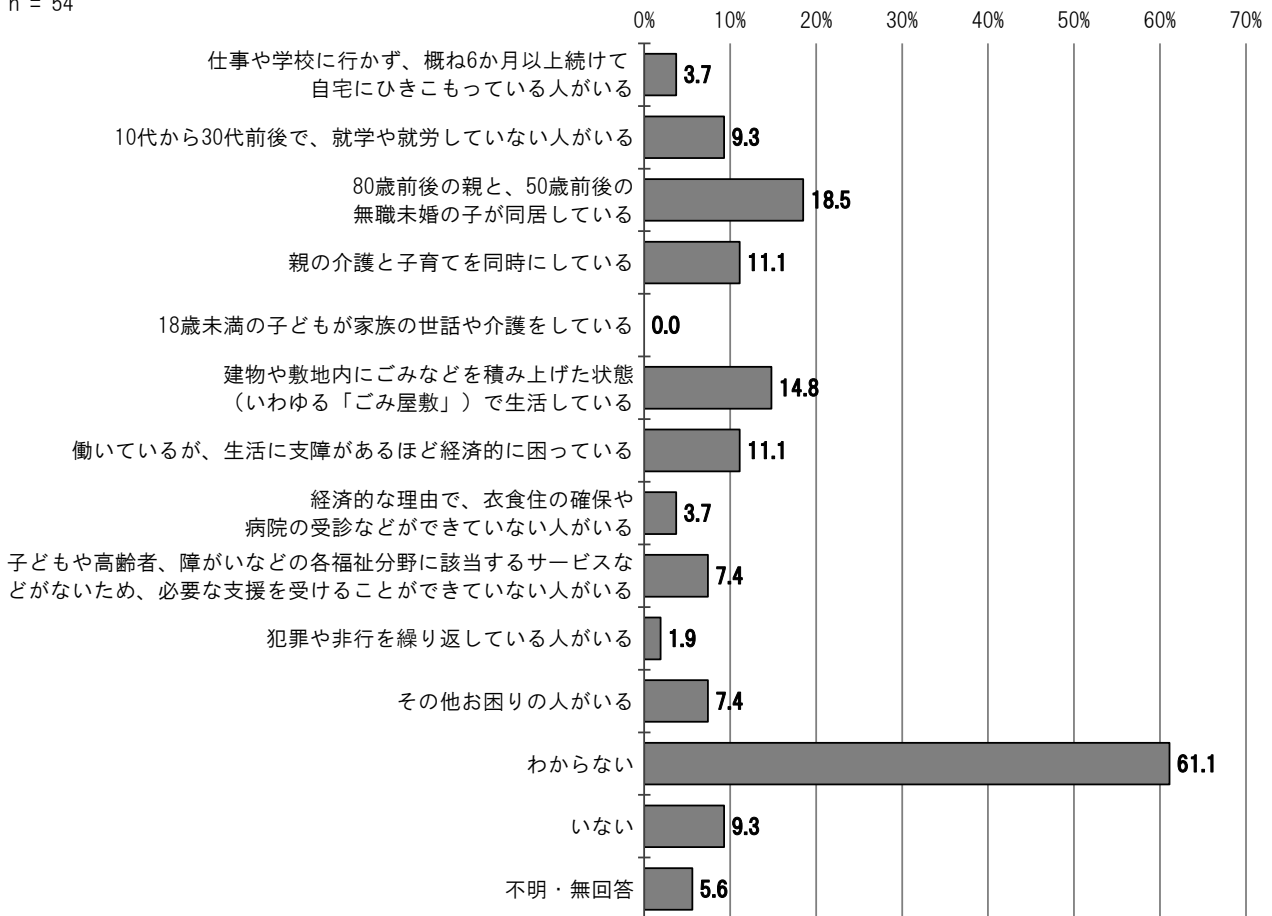
情報提供・声掛け	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者窓口(地域包括支援センター)の周知。関係機関と連携し、地域活動の支援、担い手の養成、情報提供を行う。 ● 見守り活動への参画。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 日頃より積極的にこちらから声をかけるように説明ができるようにしている。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会に対しての情報(防犯・防災・地区のコミュニティに関すること)を発信している。 ● 会議の時や日常の会話などからもお願いしたり宣伝したりすること。 ● お互いに挨拶をするようにしている。

啓発活動	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 小金井空襲の歴史を後世に残すように、千羽鶴製作を他に広げていく。千羽鶴製作が脳の活性化に繋がることをよりアピール。 ● 認知症・障がい者に対する理解を深めてもらう場の設置。決まりを守る人が年々薄くなっているので意識向上の場の設置。責任感を持てる活動を地区で推進。 ● 大きな災害や事件の少ない地域性もあると思うが防災等に対する意識が低い。第一に取り組むのは組織的な防災対策。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 啓発活動。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者や認知症に対する理解を深めてもらうため交流の場で思いやりの気持ちを育成(外国人に対しても偏見の排除)活動。決まりを守る人の育成活動など。 ● 障がいに対する理解促進のための事業を行う。保護者研修会・交流会の開催。障がい児団体の研修会紹介。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校生活の中で、障がいのある人に接する機会は限られており、その意味でも交流事業は意義深いのだが、コロナ感染症の為行事は制限されてしまい、悩んでいる。
つながりづくり・イベント参加	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園清掃をして、その後ゲームなどで集まる場を設けても、参加する人は他の集まりにも参加している。常に出てこない人が参加できる行事がなかなか見つからない。 ● 9、せっかく中学校が会場なので、交流が出来れば。10、自治会のイベントなどが少なくなっている。11、住宅地でありながらグリーントウンコミュニティセンターだけでもっと気軽に集まる場が欲しい。12、障がいのある方が、どこに住んでいるのか知らないことが多い。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の行事になるべく親子で参加するようにしている。たとえば、自治会全体での清掃活動や親睦会などに参加。 ● 交流を持てるような行事、研修などを考える。 ● 音訳体験講座を通して交流の場を提供。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 安心して参加できるイベントであることをアピールする。出来る限り説明を分かりやすく良さを伝えられるようにする。発信力を向上させる。 ● 自主防災会の高齢者向け防災研修会への参加。サロンでの交流。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティ推進協議会としての組織活動では多くの人に参加して「つながりづくり」が出来るように工夫したイベント開催などが重要と考えている。 ● 老人と子どもたちに別々に民話語り活動をしているが両方が一緒にいる場があり、そこで民話語りをしたい。今後石橋病院跡に公民館と児童館のある複合施設が出来るので、そこで大人と子どもに民話語りをして世代間交流を図りたい。 ● 夏祭りを通して行っている。 ● ボランティア連絡協議会加入団体は、市内広範囲にわたっており、今後検討しボランティア連絡協議会としての方向性は持ちたい。
日常生活の支援	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 加齢や病気・ケガにより自分で出来なくなったことでも、隣近所の人には交流も少なく頼みづらいようで、当団体に相談・依頼が来る。 ● 困りごとの依頼者と一緒に活動しているボランティア等と話し合うことで地域の問題が見えることがあり、自分たちだけでは解決できないこともあるので、関係団体につなぐ等で解決出来れば良いと思う。

問7 活動を通じて、地域の中に以下のように見受けられる人や世帯がありますか。
(複数回答)

地域の中で見受けられる人や世帯については、「わからない」が61.1%と最も高くなっており、次いで「80歳前後の親と、50歳前後の無職未婚の子が同居している」が18.5%、「建物や敷地内にゴミなどを積み上げた状態(いわゆる「ごみ屋敷」)で生活している」が14.8%となっています。

n = 54



【問7のような課題を抱える人や世帯に対して、必要だと思う支援や取り組み】

日常生活の支援や相談支援については、継続的で分野に捉われない支援など、支援へのつながりやすさが重要だという意見を多くいただきました。

また、声掛けや日頃の繋がりを通じた状況の把握については、支援をしたくてもコンタクトが難しい問題をはじめとし、多くの回答をいただきました。

意見の内容は下記の通りです。

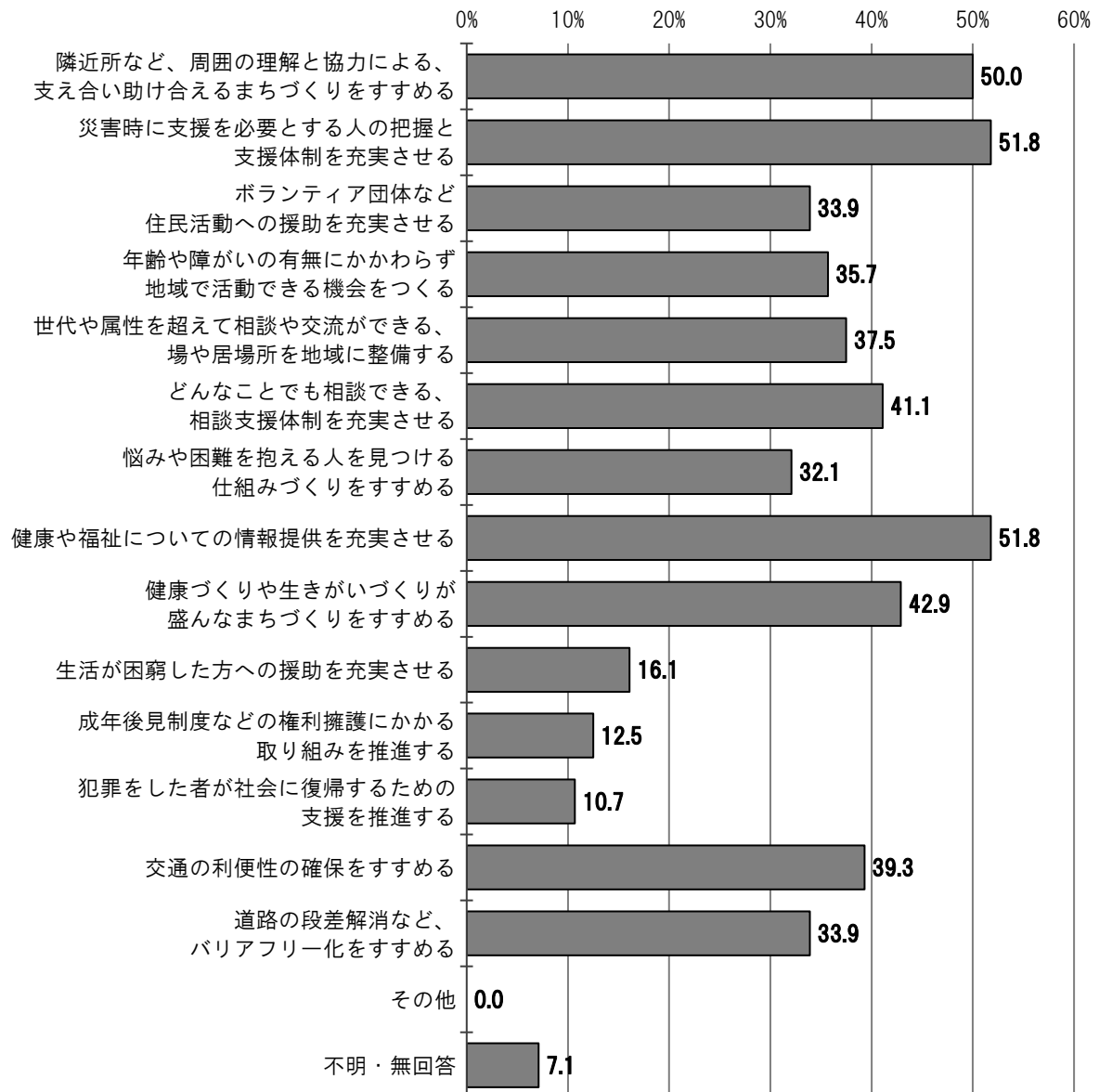
日常生活の支援	障がい	● 生活を支援できるようなサポートが必要かと思う。様々な問題の中で起きいていると思うので簡単ではないかと思うが当団体でもサポートができればと思う。
	地域づくり	● 家族と同居している高齢者も独居の人と同様な悩み、困りごとを抱えており、あるいは経済的にギリギリの生活をしている人にも困りごとの情報があれば安価で出来る限りの手助けを行いたい。現在の各種支援制度の隙間部分などもカバーしたい。

相談支援	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 分野に捉われない相談窓口を設置し関係機関へつなげる。分野に捉われないサービスの充実。対象者だけでなく、その背景にあるもの(地域、人間関係など)にも目を向けられる支援者の視点を養う。地域住民が同じ地域に住む住民に関心を持ち、お互いに見守りや相談ができる関係づくりと、そのきっかけとなる機会の提供。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な相談機関へつなげる為の体制づくり。継続的なかわり方を忍耐強くできる人材育成。制度の垣根を超えた支援が必要。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 相談できること、気にかけてくれている人がいるという事を知ってもらう。情報の発信。どのように伝えるのか→受信方法をどうするのか。
声掛けや日頃の繋がりを通した状況の把握	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会活動がコロナなどの感染に伴い自粛組織内の状況が不明。一時期は行政がリーダーとなってもよいと思う。行政の中にもリーダーが少ない。幅広い情報と関係性が必要。 ● 現在は自由社会ですから老人クラブとして見学はできるが個人的支援または声掛けはできるがそれ以上の手助けは無理と考える。これらは行政への連絡状況は言えるがこれ以上の事は無理と考える。 ● 自治会内の班別に情報収集。友愛活動支援等の活動に頼るしか無い。 ● 民生委員児童委員や地域包括支援センターその他の行政機関は働いていてくださると思うが学校等との連携も含め更に問題の掘り起こして欲しい。自分たちでは難しい。 ● 各種把握していない。自治会、老人会加入している所帯についてはある程度分かるがそれ以外の方について分からない。どのように把握しているのか知りたい。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● とても難しい問題だがなかなか言葉かけが出来ずにいる。せめてもまわりの草取りをしている。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援しようと訪問しても応答(居留守)なく支援できない。80歳前後の親と50歳前後の未婚者に対して結婚支援活動。行政や自治会を通して野焼き(自宅庭先)防止活動など。 ● 定期的に家を訪れ、家庭状況を把握する。支援の充実。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 当事者は人に話したくないことなので難しいが隣近所のお付き合いを大切に、皆で見守り助け合っていけるようになれば良いと思う。 ● 当地域においては、問11に該当する世帯が2、3件あるが、この件については、地域包括支援センターが携わっている。自治会においても軽いコミュニケーションを図っているところでもある。 ● ボランティア連絡協議会の会員は、出身団体に戻ればそれぞれの団体で積極的に活動している。地域福祉のために、各人が1～11に該当するような人を見かけたら、声掛けをし、相談に乗り、各関係機関につなぎ、適切な支援が受けられるよう連携している。

問8 下野市の保健福祉施策をより充実していくために、重要と考える取り組みはどれですか。
(複数回答)

下野市の保健福祉施策をより充実していくために、重要と考える取り組みについてみると、「災害時に支援を必要とする人の把握と支援体制を充実させる」「健康や福祉についての情報提供を充実させる」が 51.8%と最も高く、次いで「隣近所など、周囲の理解と協力による、支え合い助け合えるまちづくりをすすめる」が 50.0%となっています。

n = 56



【活動内容別】

保健福祉施策の充実に向けて重要と考える取り組みについて活動内容別にみると、〈高齢者福祉〉では「隣近所など、周囲の理解と協力による、支え合い助け合えるまちづくりをすすめる」「災害時に支援を必要とする人の把握と支援体制を充実させる」「健康や福祉についての情報提供を充実させる」「健康づくりや生きがいづくりが盛んなまちづくりをすすめる」の4つが52.9%と高くなっています。

〈障がい者福祉〉では「成年後見制度などの権利擁護にかかる取り組みを推進する」が全体と比較して27.5ポイント高い40.0%となっています。

〈子育て支援〉では「どんなことでも相談できる、相談支援体制を充実させる」が68.8%と高くなっています。

〈地域づくり・コミュニティ〉では「ボランティア団体など住民活動への援助を充実させる」が76.9%と高くなっています。

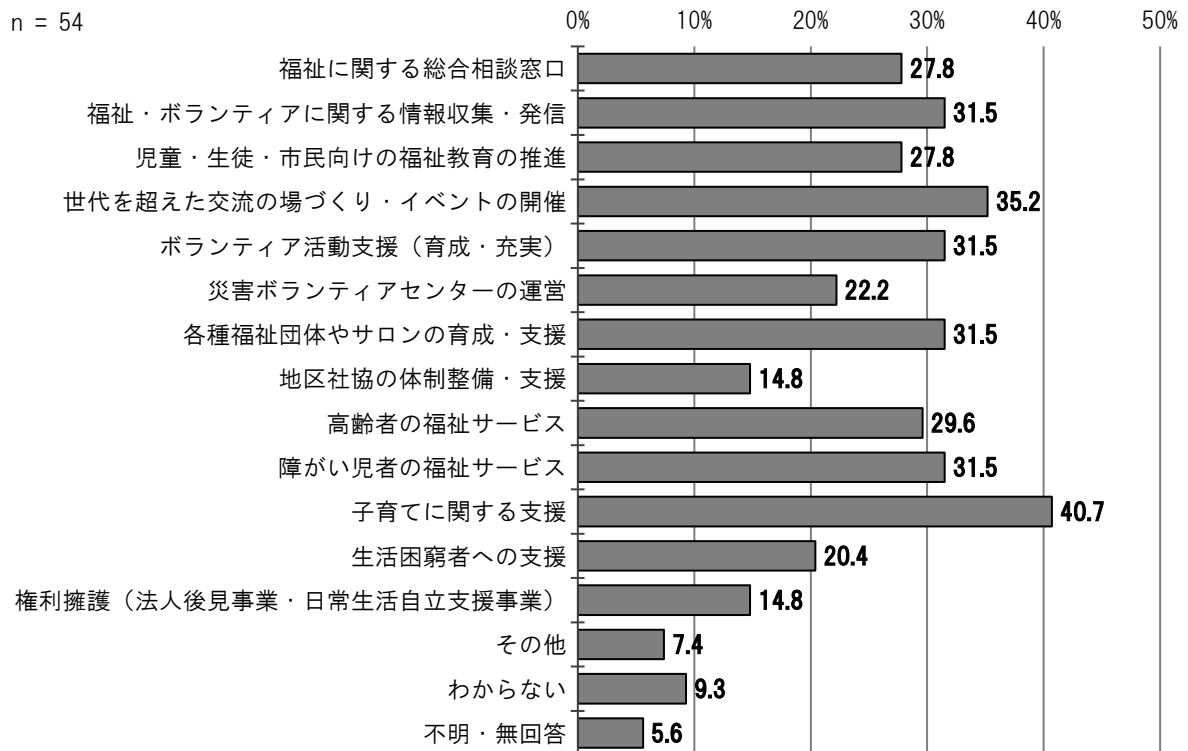
問8下野市の保健福祉施策をより充実していくために、重要と考える取り組みはどれですか。 × 活動内容

%		問8下野市の保健福祉施策をより充実していくために、重要と考える取り組みはどれですか。									
		合計	隣近所など、周囲の理解と協力による、支え合い助け合えるまちづくりをすすめる	災害時に支援を必要とする人の把握と支援体制を充実させる	ボランティア団体など住民活動への援助を充実させる	年齢や障がいの有無にかかわらず地域で活動できる機会をつくる	世代や属性を超えて相談や交流ができる、場や居場所を地域に整備する	どんなことでも相談できる、相談支援体制を充実させる	悩みや困難を抱える人を見つける仕組みづくりをすすめる	健康や福祉についての情報提供を充実させる	健康づくりや生きがいづくりが盛んなまちづくりをすすめる
活動内容	全体	56	50.0	51.8	33.9	35.7	37.5	41.1	32.1	51.8	42.9
	高齢者福祉	17	52.9	52.9	23.5	29.4	41.2	17.6	35.3	52.9	52.9
	障がい者福祉	10	40.0	40.0	30.0	50.0	50.0	40.0	40.0	50.0	50.0
	子育て支援	16	43.8	62.5	12.5	31.3	12.5	68.8	18.8	43.8	25.0
	地域づくり・コミュニティ	13	61.5	46.2	76.9	38.5	53.8	38.5	38.5	61.5	46.2
活動内容	全体	56	16.1	12.5	10.7	39.3	33.9	-	7.1		
	高齢者福祉	17	11.8	5.9	5.9	35.3	23.5	-	5.9		
	障がい者福祉	10	30.0	40.0	20.0	50.0	40.0	-	20.0		
	子育て支援	16	12.5	6.3	6.3	31.3	31.3	-	-		
	地域づくり・コミュニティ	13	15.4	7.7	15.4	46.2	46.2	-	7.7		

(網掛けは上位3位)

問9 下野市における地域福祉の推進に向けて、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。
(複数回答)

社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことについてみると、「子育てに関する支援」が40.7%と最も高く、次いで「世代を超えた交流の場づくり・イベントの開催」が35.2%となっています。



【活動内容別】

社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことについて活動内容別にみると、〈高齢者福祉〉〈障がい者福祉〉〈地域づくり・コミュニティ〉で「福祉・ボランティアに関する情報収集・発信」「世代を超えた交流の場づくり・イベントの開催」が3割を超え高くなっています。

「災害ボランティアセンターの運営」については〈障がい者福祉〉で 40.0%と高く、〈地域づくり・コミュニティ〉でも 36.4%とやや高くなっています。

問9下野市における地域福祉の推進に向けて、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。 × 活動内容

%		問9下野市における地域福祉の推進に向けて、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。									
		合計	福祉に関する総合相談窓口	福祉・ボランティアに関する情報収集・発信	児童・生徒・市民向けの福祉教育の推進	世代を超えた交流の場づくり・イベントの開催	ボランティア活動支援（育成・充実）	災害ボランティアセンターの運営	各種福祉団体やサロンの育成・支援	地区社協の体制整備・支援	高齢者の福祉サービス
活動内容	全体	54	27.8	31.5	27.8	35.2	31.5	22.2	31.5	14.8	29.6
	高齢者福祉	17	23.5	35.3	23.5	35.3	23.5	17.6	41.2	17.6	41.2
	障がい者福祉	10	40.0	50.0	40.0	40.0	30.0	40.0	40.0	20.0	30.0
	子育て支援	16	31.3	6.3	37.5	12.5	31.3	6.3	18.8	6.3	18.8
	地域づくり・コミュニティ	11	18.2	45.5	9.1	63.6	45.5	36.4	27.3	18.2	27.3
活動内容	合計					権利擁護（法人後見事業・日常生活自立支援事業）	その他	わからない	不明・無回答		
	全体	54	31.5	40.7	20.4	14.8	7.4	9.3	5.6		
	高齢者福祉	17	17.6	17.6	29.4	17.6	23.5	17.6	-		
	障がい者福祉	10	60.0	30.0	30.0	30.0	-	20.0	10.0		
	子育て支援	16	37.5	75.0	12.5	6.3	-	-	12.5		
地域づくり・コミュニティ	11	18.2	36.4	9.1	9.1	-	-	-			

(網掛けは上位3位)

問10 今後、貴団体・事業者として市や社会福祉協議会と協働でどのようなことに取り組みますか。
(記述回答)

情報の共有・つながりづくりについては、今後の活動に向けて地域の他の団体と連携する基盤をもちたいという意見を多くいただきました。

また、今後の取り組み内容の検討を協働で行ってきたいという意見を多くいただきました。加えて、今後の取組実施の上での具体的な連携についても回答を多くいただきました。

意見の内容は下記の通りです。

情報の共有・つながりづくり	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 老人クラブと民生委員とのつながりが欲しい。 ● 自治会が積極的に地域活動の支援をして地域を盛り上げ活動に取り組むようにしてほしい。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援を必要としている家庭、親子が適切な支援を受けられるよう情報共有を行っていく。 ● 希望することは何でも取り組めると思う。考えられることは何でもできるはず。そのためには対話が必要であり、どのように繋がれるかを考える事。お互いを知り、理解の上で協働することができる。 ● 子育てなどで悩んでいる人が一歩踏み出せる場、外に出られる方はいいのだが1人で悩んでいる方が出られるようにするにはどうすれば良いか。
取り組み内容の検討	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動に関する事業について、より効果的に実施するために、情報共有と一緒に取り組める事業内容を検討していきたい。 ● 老人クラブは自治会単位なのか。大きなコミュニティ会場のある単位なのか。統一することにより指導の在り方も変わってくると思う。現在はチグハグなので各クラブの悩みも違っている。これを統一しないとまとまりがつかなくなってくると思う。 ● 「高齢者サロン」なので、社協から活動に対する補助金を頂いている。協働できるとしたらサロン運営担当者として他のサロンの方々とよりよい運営のための話し合いに参加することがか。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種福祉団体やボランティアに関すること。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のコミュニティ活動の推進活動は力を入れているが限界があると思うので知恵を頂ければと思う。この地区は他人との関わりには消極的な部分があるので少しでも温度差が無くなればと思う。 ● 地区社協の取り組みは大変ありがたいので今後行事ができるようになったら色々教えて頂きたい。 ● 高齢者などからの困りごと相談のうち、当団体で取り組み可能なことについての情報提供を頂きたい。

取組実施の上での連携	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 7月28日小金井空襲の慰霊を目的として、幼稚園～介護施設までの人々が千羽鶴製作する輪を広げる(悲惨な空襲の継承、手指運動による脳の活性、地域の連帯感)。 ● 団体活動の活性化。場所の問題は石橋公民館の完成で良くなるが、利用方法で老人会への特例ができるのか？組織の改革は、時代とともに実施できる事業の打ち合わせや会議を催ける。(例)老人会では椅子生活に変わっている座ることができない足の悪い人が多い。屋外活動への参加ができない。出来ることは何か？ ● 児童館で、学童保育児童と老人会のゲームなどでの交流。登下校時の見守り活動。 ● 高齢者の足の確保。買い物や通院時の交通手段が少ない。現状のコロナ禍で人が集まるとの活動が難しいこの間に見落としてしまう事があるのが心配。社協としても現状とコロナ禍後の対処対策が必要だと思う。 ● 福祉協議会主催の事業にはできうる限り参加していきたいと思っている。
	障がい	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者団体との交流がスポーツ大会だけで、年に2回程しかなく、自主活動している若い世代の保護者との交流が、ほとんどないので、顔合わせの場を作ってほしい。 ● 広く、理解をしていただけるような活動。目に見えない障がいを知っていただく機会を増やしていく。 ● 視覚障がい者との交流を深め、ニーズをくみ取ったイベントや情報提供。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てに関する相談のお手伝いなどはできると思う。 ● 世代を超えた交流の場づくり、催し物の開催。高齢者の福祉・障がい児者の福祉活動支援。認知症に対する理解を深めるための活動など。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニティ推進協議会との協議活動では、多くの人に参加して「つながりづくり」ができるように工夫した多彩なイベントを永続的に共済していくこと。【具体例】①広域イベント(特定地域に偏らない)世代を問わず、障がいのあるなしに関わらず、全ての人に参加できる機会を創造する。1)みんなのマルシェ 2)ファミリー音楽祭など ②テーマを絞った目的型イベント 1)体験の風を起こそう「みんなでつくる」を目指し一人一人がやりたいこと、好き・得意を活かしながら成長できる場所を創る。テーマ:家庭の日・家族みんなで地域活動に出かけよう! 2)自主映画上映会 ドキュメンタリー映画や実話に基づく映画により多くの世代の方々に、いま私たちが大切にしたい事、そして手渡し続けたい事、そのためには何が必要なのかを映像の力で語りかけ、ともに気づきあうきっかけの場とする。テーマ:普(ふ)段の暮(く)らしの幸(し)せを考える! ● これまでの行事などを充実させる。 ● 民話や昔話や神社仏閣にまつわる伝説などを通して広く子どもたちやその親御さんに自分たちの郷土の歴史や言い伝えを知っていただき若い世代に郷土愛を育んでもらう事が私達のボランティア活動の目的の一つ。なので社協主催のイベントにそのような場を提供していただけたらと思う。又、歴史館ボランティアの方とのコラボで子どもたちに地元を紹介したりできないかと思っている。なのでボランティア団体がいくつか手を合わせてイベントをできたらと考えている。その時のアドバイザーや橋渡しの役割をしていただけたらと思う。 ● 課題は多いため、当然、行政及び協議会との連携を図り地域の現状と協議会の専門的なアドバイス等を取り入れた情報交換、更に研修会、及び講演会等の上で協議をし、地域に沿った活動を期待したい。 ● ボランティアセンターへの登録は約70前後と聞いている。しかし、ボランティア連絡協議会加入団体は少なく、このまま減少を続けていくと近い将来、消滅が懸念される。ボランティア連絡協議会は、市町合併後15年経過し歴史を刻んできた。今後、ますます発展させるべきだと思う。5年後にはボランティアセンター登録数の半数を目標にボランティア連絡協議会と事務局が強力に働きかけ加入を促していくのはどうか。(目標は高く。) ● 福祉に関する学びとボランティアのような活動の両方の学びができると良いと考えている。認知症サポーター養成講座のような学習の場や手話の養成講座が身近にあると学びの機会が増えると思うのだが…。ボランティア活動についてはその機会が多くあれば生徒にも紹介できるのだが、コロナ感染の心配もあり、難しいのかもしれないと考えている。

問 11 地域福祉の推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。（記述回答）

今後の活動方針・活動の課題、地域のつながり、必要な施策や取り組みについて回答をいただきました。
意見の内容は下記の通りです。

今後の活動方針・活動の課題	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 老人会は今後無くなると思う。会長をやるような人材が少なく、解散している。 ● 地域安全ボランティアは、今は老人会が中心になって行っているのが現状。このままでは後継者が無く消滅の危機を感じている。労働社会の高齢化が進んでおり老人会の会員数は減少している。こうした現状は地域福祉の面にもしわ寄せが来ている。早急に取り組む課題だと思う。 ● 最近スポーツ交流などについて下野市全域で開催されているが、できれば各地区で開催(石橋、国分寺、南河内)できればと思っている。移動手段が車になり参加できない場合がある。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 職場の方とあまり交流が無く、限定された方々との交流だったのでコロナが落ち着いたら何か取り組めることを園で考えていきたいと思う。 ● まだスタートして間もない施設なので、今後、沢山の方と触れ合い、子どもたちと楽しく過ごせるような環境づくりを行っていききたいと思う。地域交流など、コロナが落ち着いたら是非参加してみたい。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 有償ボランティアサービスを市内のどこにいても希望すれば受けられるようにしたい。その為類似団体と足並みをそろえ、地域拡大にも協力し、近い将来には一つの団体に統合したいと考えている。 ● 他のコミュニティの行事や運営の仕方などについて見学したり参考にしたりしたい。 ● コロナ禍で講演会やふくし祭りなど実施できないが、世の中が落ち着いたら各ボランティア団体同士が実際にどんなことをしているのか発表の場、紹介になるそれぞれの内容を実際に披露しあうイベント等あるとお互いを知り、又、地域で頑張ろうという気になると思う。それを社協さんがバックアップしてくださると嬉しい。 ● コロナの影響で活動がかなり制度を受けると思うのだが生徒には、ボランティア活動への意欲を持つものもいるので様々なボランティア活動があれば、生徒にも紹介できると思っている。
地域のつながり	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 問 10 にも書いたことと同様温度差がどうしてもある為他人との関わりドライな部分がある。地域とは…コミュニティとはでいつも思い悩む。 ● 地域の課題に即答するには、地域に根差して活動する組織の方が、うまく機能することは言うまでもないことで、もともと、地域には老人会や婦人会、母親クラブでの子育て支援など、自治会活動の中で補われていたが、時代とともに失われてきた。今、改めて自治会の在り方が注目されているが、その背景には、深刻な大規模災害や困りごとの多様化がある。幸いにも大きな被災経験もなく高齢者介護も先の事と思いたい地域住民にとって、自治会の存在は影が薄く、マイカーとコンビニと SNS があれば、近所との付き合いは不要と思われることも現実である。また、日々の仕事や生活に追われる中で、直接関係のあること以外はなるべく関わりたくないし関わる余裕もない、という住民生活の姿がある。時代とともにライフスタイルの変化や世代間での価値観・意識の違い、世帯の構造変化などにより、人と人とのつながりも多様化し、自治会を巡る情勢は一層厳しいものになっている。今こそ現実の課題をともに議論し、協働できる地域組織として「自治会」を再整備していくことは、行政にとっても欠かせない課題ではないか。

必要な施策や取り組み	高齢	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の支援体制として送迎用バスの運行の充実。認知症の支援のための広報や教室(出前教室)開催。自治会や老人会活動の充実強化など。 ● ひとりひとりの幸福が、地域の福祉である。今の日本は自由に行動発言でき人種差別がない。しかしこれは、未来永劫続くとは限らない。努力なしには消えてしまうかもしれない。先人たちの努力によって作り上げられた現在の幸福社会を深掘すべく、特に正確に昭和の時代を学ぶことより、地域の福祉・一人一人の幸福の意味を理解していただくことを、下野市として取り組んでいただけないか。 ● 既存の団体や地域の活動を活かして、地域の機能の充実と強化を進めることが、新たな取り組みや活動が必要となった場合に有効的であると考え。地域福祉の推進は、地域共生社会の実現や地域包括ケアシステムの構築に必要な不可欠なものであり、社協と市との協力体制は今後ますます重要になると考える。 ● 交通の利便性の確保、本地区は市中心部から離れており、移動には必要であるが高齢化、若者の減少で今後車の運転のできない人たちの増加が推測される。買い物難民、病院の通院に支障が生じる。いつでも自由に安価で移動できる手段を考えてもらいたい。タクシー券の割安利用、スーパーの配達などの更なる拡充。 ● 地域福祉は、地域の協力や自主性が必要であるが現在の組織は地域と離れた状況で行っていないか？事業内容がマンネリ化していないか？現状の状況調査が必要。このアンケートに出てこない問題も多い。市の福祉課のデータとのすり合わせや関係課との協働は出来ているのか？安全安心課、協働推進課、教育委員会などとの横のつながりや打ち合わせなど。 ● 地域包括支援センターとのつながりがもっとほしい。
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な取り組みをしていると思うがその取り組みが知られていないのではと思う。また、その取り組みを利用しようとすると急なことが無理だったりいつでもOKとならないことがあったりするのではと一人親の子育て中思うことがあった。 ● 高齢者の支援体制として送迎バスの運行の充実。福祉事業者との協働による高齢者の買い物支援の充実。認知症支援のため広報や教室(出前)の開設。自治会や老人会の活動の充実。後継者のない手がない自治会や老人会の後継者育成の強化。 ● サービスが求められることが多い世の中。子どもの気持ちをしっかりと代弁してあげられるようにしたいと思っている。預けられっぱなしで子どもの心の育ち、体の発達等、いろいろと心配。
	地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 講演会などの実施。 ● 地域と行政が更なる連携を図り情報を密に、よりスピーディな対応により地域に貢献をしたい。 ● ①ふくしのまち下野市の福祉事業は、他市町に比して充実されていると思う。市民一人一人の自覚も必要だが、そのリーダーとなる方々や関係機関の努力に敬意を表す。②地区社協だが、地域コミュニティを中心として必要と思うので、今後未整備地区へ設置し市民が協力し支えあう体制整備が必要と思う。③自治会の未加入の方々の加入促進を図り、地域の一員であるという自覚を持ってもらい、徐々に地域に溶け込めるよう働きかけが必要かと思う。行政の分野になるが、社会福祉協議会でも一部になっていけば、社会福祉協議会の会費、共同募金、歳末募金、日赤社資等々の増額に繋がるのではないかと。(福祉サービスは自治会加入云々は関係ないが…)④人口減少や出生数減少が懸念されているが、独身男性、独身女性が最近身近に感じられるようになった。各人の人生の選択だが、健康で働けるうちは何も感じないのかもしれないが、高齢になった時、体調を崩した時など独り身は寂しいと思う。行く行くは何らかの福祉に繋がってしまう可能性大であると考えられる。婚活支援事業を、長い目で見た場合、福祉事業として捉え、社会福祉協議会で担っていくのはどうか。⑤特に行政や社会福祉協議会職員は、40年近く勤務した時は、恩返し(倍返し)ではないが地域のリーダーとして、地域福祉のリーダーとしてボランティア活動などに貢献してほしいと思う。

III. ヒアリング調査の結果

ヒアリング調査は、高齢者福祉・障がい者福祉・子育て支援・地域コミュニティづくり・若者支援・ボランティア支援の各分野で活躍されている6団体を対象として行いました。

ヒアリング実施内容については、調査票での調査でお書きいただいた内容について、詳しい内容や状況をお伺いしました。

以下では、調査票の設問ごとに、いただいたご意見等のヒアリング内容をとりまとめています。

泉町クラブ	
問1 貴団体・事業者について 問2 貴団体・事業者の活動の中で、地域と一緒にやっていることや、地域に向けてやっていることはありますか について	
交流会の内容について	今年はコロナでやっていないが、小学生対象の子ども会、老人会、公園でゲームなどをしていた。
企画は一人でされているのか	企画は会長が一人でやっている。 手伝ってくれる人がいればいいが、忙しくてできないと言われる。
問3 貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。 について	
自治会との連携の状況は	自治会主催の清掃は積極的に参加している。
問5 貴団体・事業者では、地域活動情報をどのように発信していますか。 について	
「若い人の入会が少なく、活動する人数が少しずつ少なくなっている」「情報発信をしていない」とお答えいただいているが、これまで新規の方が入会されるきっかけはどのようなものが多かったか	会員の人が友達を誘って、紹介で入ってくれることが多かった。
今のメンバーの年齢構成、メンバーが少なくなっていることについて	定年後にいろんな趣味を持っている人が多いため、老人会に入らなくても好きなことをやっていれば十分という人も多いのでは。 高齢でも、自分から抜ける人は少なく、自然に活動に出てこなくなってしまう。声掛けしたくても、家にいるかどうかもわからないし、家庭訪問の形はとれない。印刷物を置いておくことしかできない。
問6 活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。 について	
「隣近所との交流が少ない」の状況	時代の流れ。昔なら隣に行ってお茶のみをやったことも多かったが、今の時代はそういうことはほとんどない。歩けるうちは、グラウンド・ゴルフに来てもらうとか、外でおしゃべりができるとよい。

問7 活動を通じて、地域の中に以下のように見受けられる人や世帯がありますか。 について

集まる場でこうした課題について話が出ないか

一番情報が入るのは週に1回のグラウンド・ゴルフの休憩時間だった。しかし、人のうちの話というプライバシーの問題もあり、話が少しは出るがすぐ途切れてしまう。

困っている人は出てこないからあまり情報は入ってこない。

国分寺では和ごむの会をうまく利用している人ならいいが、情報を利用できない人が困っているのでは。

利用しそうな人には、和ごむの会の情報を配ったりはした。2～3人は利用しているようだ。

ただ、健康でいるうちに配っても、困っていないと断られてしまうので、情報の配付範囲が困る。日常生活で困ってないのにいい迷惑だとなってしまう。どの範囲まで広げて良いのかはわからない。

問8 下野市の保健福祉施策をより充実していくために、重要と考える取り組みはどれですか。 について

「ボランティア団体など住民活動への援助を充実させる」についての詳細、具体的にこういった仕組みがあったら良いというものはあるか

市としては補助金出しているのはいいが、お金を出しただけではなく、こういうことをやったらいいのではというアドバイスをしてほしい。リーダーだけに任せるのではなく、他の会での取り組みなどの情報があるとよい。どういう形でもいいから情報が入ってくれば。

他団体とは、スポーツ大会など、行事に関する交流機会はあるが、情報交換の場はない。また、行事が終わるとそれ以上の交流には発展が難しい。

「健康や福祉についての情報提供を充実させる」についての詳細、具体的にこういった仕組みがあったら良いというものはあるか

個に合わせた情報提供が難しいとは思いますが、本当に困っている人の状態に合わせた情報が少ないのではないか。

「健康づくりや生きがいづくりが盛んなまちづくりをすすめる」についての詳細、具体的にこういった仕組みがあったら良いというものはあるか

いきいき体操は老人会より参加者が増えている。老人会よりサロンのような形の方がよいのかもしれない。

いきいき体操も、結局対象になるような階段を上げるの大変、遠くまで歩くの大変という人は来れていない。

問9 下野市における地域福祉の推進に向けて、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。

問 10 今後、貴団体・事業者として市や社会福祉協議会と協働でどのようなことに取り組めるとお思いますか。 について

「各種福祉団体やサロンの育成・支援」についてどのようなことが必要か

サロンで集まって1時間半～2時間の内容を考えたときに、下野元気はつつ体操は 45 分で終わってしまうので、その後楽しむためには何をやったらよいか分からない。

一番喜ばれるのはゲームをやった商品がもらえることだが、ゲーム・商品となるとお金を集めないといけない。会費を高くすると来なくなってしまうし、市からの助成金は出ない部分なので、どう工夫したらよいか難しい。そういった情報が欲しい。

問1 貴団体・事業者について 問2 貴団体・事業者の活動の中で、地域と一緒にやっていることや、地域に向けてやっていることはありますか について

立ち上げの経緯について

元々NPO で障がい者就労支援をやっていた。NPO の思想が今も続いている。当事者の雇用を進めるのもそうだが、地域の人と一緒にやっていく、ということを経続的にやっていきたいという思い。障がい者雇用 10 年単位でだいぶ進んで企業で働く人も増え、トレーニングして就職に送るサービスは増えているが、受け入れ企業側が困ってきているという部分が増えてきたので、ハローワーク勤務を経て立ち上げた。

下野市で活動している理由としては、祖父が住んでいた古民家だったツバキヤがあったことが大きい。祖父が亡くなり、潰すか考えたときに、地域に資源になりそうなものがある中で、活用してコミュニティを作れないだろうかと思い、折角だから事務所にして作ってみようとなった。

立ち上げから3年ということで、コロナ禍での状況の変化はどうか

法人立ち上げから3年、その前からコミュニティ事業を 2016 年からやっていた。コロナなる前に地域の方とつながるきっかけがあった。利用して下さった地域の方や障がいを持っての方。地域イベントの運営協力につながっていた。

コンサルティング業務は、企業の中に働く方は一定数いるので、コロナの影響はそれほど受けず。新規雇用は減ったものの、継続的に働いている方のサポートが進んでいる。

コロナに関係なく、ツバキヤの場所に限らなくて良いのではという話が出ている。地域の動きをどう把握し続けられるか。地域とのつながりができると LINE、Facebook などでも周りの人の動きが分かる。SNS 関係、地域の方と Zoom でつながったり、オンライン飲み会をしたりというのもある。

以前はイベント活動があったが最近はあまりないので、最近どうですか、といった声掛けで、地域がどう動いているか把握し続けたい。

問3 貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。 について

ボランティア団体との連携の状況は

ボランティア団体が古民家のすぐ近くの森の管理をしていて、そのイベントの時に協働でお茶会する場所に使ってもらった。子どものリミックや昔の体験などを行っているボランティア団体が古民家を利用するなど、利用に関してのつながりが多い。団体側から声をかけてもらうことが多い。

小学校との交流の状況は

クラスで古民家の社会科見学をもらった。

デザイナーの人が地域とつながりが強く、小学校側からそのデザイナーに話が入ってきた。

問4 貴団体・事業者が地域活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。 について

企業や団体とのマッチングが課題だとお書きいただいているが、現状はどういった形で企業や団体とつながっているのか

県内全体だが、これまでは過去の職歴からつながりがあったため既存のつながりの継続が多い。企業同士のつながりもあり、そこから次の企業にご紹介いただくような発展をしている。

Bridge	
問5 貴団体・事業者では、地域活動情報をどのように発信していますか。 について	
	<p>インターネットを通して他の団体と地域内の交流がうまれているか</p> <p>SNS は個人間のやり取りが多くなるが、知ってくださってる方、SNS でつながって活動に興味持ってくれた方や、地域おこし協力隊の人が気にかけて参加してくれた方との交流がある。</p>
問6 活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。 について	
	<p>地域の障がい者との共生がすすんできたかの実感</p> <p>地域の人と活動していくうちに、受け入れてくれてるという感覚はある。最初から障がいがある人が地域の人と混ざりますというスタンスだと難しいが、イベントでこういうことできる人いますよ、ただ、こういう障がいはありますが、と障がいというキーワードを後ろに持つことで、障壁が低くなる。</p> <p>「障がいのある人に対する理解が不足している」とお答えいただいているが、どういう場面で理解が不足していると感じるか</p> <p>当事者の方においては企業・働く場が見えづらい、企業においては当事者がどんな人かわからないという双方の理解不足がある。企業や地域からすると、障がいのことを考える材料・機会がない。最初から障がい者と出会うという訳ではなく、個性を活かした出会いをどう作るかが重要。</p>
問7 活動を通じて、地域の中に以下のように見受けられる人や世帯がありますか。 について	
	<p>解決に向け必要な相談支援について</p> <p>情報提供できる場はあると思うが、本人側にアプローチできるといいと思う。障がい者の雇用の求人もそうで、ハローワークにおいてはあるが、情報的にたどり着かない人はいる。情報があなたに合いそう、というのが本人側に情報が行くといい。</p> <p>福祉サービスは相談員がつくのでいいが、そこまでいかない人への情報提供は、新聞・回覧板、Web・SNS など、その人に合ったものは個人で違う。発信の仕方を多様にしていくしかないのでは。</p> <p>情報があっても、ネットで見ないとわからないとか、LINE でも探さないと来ない情報が様々ある。自分が欲しい情報がプッシュ的に来るとよいが。</p>
問 11 地域福祉の推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。 について	
	<p>情報を連携させて支援していく、場の具体的なイメージはあるか。</p> <p>企業側の人と障がい者のこと議論できるとよい。福祉事業者の中で話すことはあるが、福祉事業者の中で就労に関する課題について、自立支援協議会の就労支援部会の中で、市内の企業や事業者を呼んでの情報交換会が実際に始まるどころ。</p>

えごのき塾

問1 貴団体・事業者について 問2 貴団体・事業者の活動の中で、地域と一緒にいることや、地域に向けて行っていることはありますか について

立ち上げの経緯について

一昨年の会合の時に、子ども食堂について話が出て、立ち上げようということになった。
最初は参加者を募るのが大変だったが、今は多くの方に来ていただいている。
食は人間形成の上で一番大切なので、一端をなせればと思っている。
子ども食堂という名前は貧困をイメージしてしまい、そういった名前を使わない方が良いのではということでえごのき塾という名前にした。

会員数について

会員8名の他、6～7名元学校の先生などにも支援をいただき運営をしている。

子どもの食育教室、ひとり親、核家族、自殺予防、虐待予防、交通事故防止、多世代交流など幅広い活動をお書きいただいているが、それぞれ参加者の人数はどのくらいか

当初はコロナがなければ公民館会場で30名ほどを想定していた。今はコロナがひどくなってきて15名ほど。

活動の詳細は

開催は10時～14時で、密を避けるために数人で料理をする。包丁の使い方を教える時もある。午前中は調理。午後は子どもの希望に沿ってやりたいこと、勉強などをしてもらっている。

「活動を通してまちづくりに参加したいと考える人々の育成を目標としている。」とご回答いただいているが、参加者としての参加から活動者につながっていく方を育てていくのが目標ということか

将来、就職するときに、下野市で自分の力を発揮したいと思ってくれる人が一人でも出てくれると嬉しいという気持ちで臨んでいる。

問3 貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。 について

「施設を訪問し交流を図るとともに、理解を得る活動を行っている」の具体的な内容。

今はコロナ禍なので施設も歓迎はされるが行きたくてもいけない状況。今のところ具体的な行動はできていない。資料館に行く活動もある。認知症がある方との交流なども今後できたらよい。市の職員の方を講師として呼ぶこともある。

毎月の計画は立てているが、その通りできない時はビデオで見ている。

えごのき塾	
問5 貴団体・事業者では、地域活動情報をどのように発信していますか。 について	
参加される方はどういうところで知って参加されるのか	最初は広報紙で参加を呼び掛けていたが、次回の予定表を配って、チラシや口コミで常に参加いただけるようになった。緊急事態宣言下でもやってほしいという声もある。
新聞・雑誌・テレビ・ラジオを通しての情報発信の詳細は	下野新聞で掲載してもらった。初回は県からも来てもらった。
LINE の活用状況	参加するお子さんのお母さんと、グループをつくって一斉発信するなど、つながっている。 LINE をやらない人にはショートメール等で対応している。 お手伝いを頂いている方ともLINE でのやり取りをしている。
公共施設に依頼とはチラシを配っている、のようなことが	チラシを社協の窓口など置かせてもらってる。今は広報しなくても来ていただけるが、チラシは通年使えるものを置いている。
問6 活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。 について	
課題を多く感じていらっしゃるかと思うが、一番は	あいさつ、世代間の隔たり。知っている人でもあいさつすると目をそらす、顔をそらす、ということもある。
外国人に対する理解不足の状況	具体例はなく今の小さいお子さんは学校にも外国の先生がいるので認識が違うかもしれないが、肌の色で、差別してしまうようなことが、大人の中にはまだ残っているのでは。 親しくしていると、目をそらすような雰囲気は無くなっていく。まずは交流することから。
問7 活動を通じて、地域の中に以下のように見受けられる人や世帯がありますか。 について	
「80 歳前後の親と、50 歳前後の無職未婚の子が同居している」の詳細な状況	どこの地域でもこういう世帯は何件かある。親が援助しているのか、買い物に行きたくてもいけないということで、社協の協力を頂いて、介護施設の空いている時間に希望者を募って車に乗せて、買い物に行くことをやったことがある。試験的な試み。親の方から言えばいいだろうが、遠慮してしまうのかもしれない。 どういった状況でこうした課題を把握するのかについては、民生委員をやっているので、見守りの中もそうだし、実際に話をしている中で話す方もいる。
「建物や敷地内にごみなどを積み上げた状態(いわゆる「ごみ屋敷」)で生活している」の詳細な状況	ごく一部ではあるが、ゴミ屋敷というほどではないが家の周りに草が生え、容器や新聞紙が散乱しているところは見受けられる。
支援しようとしても居留守でできないというのはほかでもよく聞く課題だと思うが、その中でもうまく支援につながったケースはあるか	こういう家庭はごく一部。中々そこまでやってる余裕ないし、コロナ禍なのでなるべく訪問するな、電話でと言われることもある。個人的には電話だと見えないから直に訪問しているが、合って話さないことには先に進まない。好事例つくるにも時間がかかる。

えごのき塾

問9 下野市における地域福祉の推進に向けて、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。

問 10 今後、貴団体・事業者として市や社会福祉協議会と協働でどのようなことに取り組めると思いますか。 について

「世代を超えた交流の場づくり・イベントの開催」「地区社協の体制整備・支援」についてどのようなことが必要か

各地区で催し物の開催があったときに、車がないために参加が難しい方、バスはあるが、来たくても来られない方もいる。

催し物について、自粛ばかりではなくコロナ禍の中で共存できるような形を変えて進めていってほしい。

権利擁護についての状況は

社協でも出前講座などに力を入れていて、浸透してきている。

障がい者の自立支援についてはまだ浸透していない。障がい児者交流はあるが、各団体の交流の場だけで、地域の中で自立支援、施設で催し物やる時に地域から行ってみるとか、そういったことをすればもう少し支援につながっていくのでは。

姿西部コミュニティ推進協議会

問1 貴団体・事業者について 問2 貴団体・事業者の活動の中で、地域と一緒にいることや、地域に向けて行っていることはありますか について

レクリエーション大会について

2年前までは年に1回秋に、100人程度の参加で、体育館の中のレクリエーションを行っていた。今はコロナでできていない

お話し会について

夏休みに小学生以下を対象に、十数名参加。絵本、大型絵本、紙次第、素話や簡単な手遊び歌、ダンスなどを一緒にする内容。

回覧で回してもそれを見てきたという人は少なめ。

学童保育に来ている子が参加することが多い。

お茶しよう会について

お話し会が小学校で読み聞かせをする。また、お茶の先生がいたので煎茶と抹茶の淹れ方体験をする。

子どもから大人まで誰でも。多い時で十名ほど。少ない時は二人ほど。

普段はどんな年代の方が参加されているか

最初は子どもの方が多かったが、60歳過ぎた人も来てくれたりする。

コロナ禍で活動に変化はあったか。オンラインの状況はどうか

上記3つの取り組みはできていないが、個人的な心理学教室や健康教室でのコミュニティセンター使用はあった。

問3 貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。 について

「自治会長さんに役員になってもらい、一緒に活動している」の詳細

小学生へのチラシ配布など。

自治会との連携にあたっては、普段の打ち合わせなどにも入っていただいているのか

そうなる。以前からそういうシステムになっていたので受け継いでやっている。

民生委員児童委員との連携の状況は

自分が民生委員だし、サロン立ち上げの際に、地区の民生委員に話をきいてもらって、一般の人から問い合わせがあった時に応えられるようにした。

子ども会との連携の状況は

お話し会とお茶しよう会のときに、回覧を回してもらう。

レクリエーション大会で子どものお楽しみリレーのために参加。

社協との連携の状況は

親切で色々教えてくれている。去年から地区社協を立ち上げるということで申請をしたが、行事がことごとくできていない。他の地区の人に聞いたら野外のお祭りに社協の人が来て手伝ってくれたと聞いたので、今後そういったこともできればと楽しみ。レクリエーションに使える遊具の貸し出しも受けたことがある。

問4 貴団体・事業者が地域活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。 について

どういった行事の参加が少ないか

お茶しよう会が少ない。毎回同じイラストを入れてお茶しよう会だと分かるように回覧を回しているし、配って声掛けもするが、年々少なくなっている感じがする。回覧だけだとダメだなと思うが、コロナのこともあるので密になりすぎても困るのでどうやるかは課題。開催時間中いつ来てもいいと書いてあるが、読んでもらえないのかもしれない。

問5 貴団体・事業者では、地域活動情報をどのように発信していますか。 について

回覧、チラシ以外での情報提供の手段はあるか

コミュニティ単位でやっているの、違う地域の方が来られてもどうかというのはある。地区社協で助成が頂けるとのことなので、社協を通してお願いできることがあるならこれからやっていきたい。

問6 活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。 について

「世代間の交流少ない、地域の活動が活発でない」についての詳細な状況

最近のこととして回答した。旧国分寺地区は運動会があったので、小さい子から年配の方まで集まって競技して、家族ぐるみで応援したりしたり会話があった。小学生過ぎると親も来なくなってしまう。

地域性として農家の方はレクリエーションにも来ないことがある。

レクリエーション大会については、班長は必ず来るが、終われば来ないというところもある。班によって軒数にばらつきがあり班長になる頻度も異なる。

自発的に来てくれる人は少ない。呼びかけても別の用事を優先したり、あるいは応援なら良いが行くと競技に出ないといけなからと言ったりで断る人もいる。

問7 活動を通じて、地域の中に以下のように見受けられる人や世帯がありますか。 について

「わからない」とご回答いただいているが、交流の場に来ていただいている方からこういった話は出てこないか。

道を通っているとゴミがたまっている家はあるが、地域に出てこない人というわけではない。

育児ノイローゼになった奥さんがいるとか、小中学生の頃から学校に行けなかったお子さんがそのままひきこもりというお宅は何軒かある。ひきこもりの方は行事には出てこないが、親が無くなったので供養する集まりには来られた。

声をかけることもあるが、かけても断られる。

地域とのつながりが薄い方が多いか。

人のうわさを気にする傾向にあると思う。活動に参加したいが周りの目が気になるからしないという人もいる。久しぶりに来たら「あれはどこのだい？」から始まるのが嫌な人もいる。

問9 下野市における地域福祉の推進に向けて、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。

問 10 今後、貴団体・事業者として市や社会福祉協議会と協働でどのようなことに取り組めると思いますか。 について

「福祉・ボランティアに関する情報収集・発信」についての詳細

例えば、行事をやる時にお手伝いに来てくれる人がいますよ、といった情報を教えてほしい。

「児童・生徒・市民向けの福祉教育の推進」についての詳細

積極的に地域に関わる人づくりの推進。

「世代を超えた交流の場づくり・イベントの開催」についての詳細

他で行った活動の事例など、参考になることを教えてもらえるといい。

「子育てに関する支援」についての詳細

なかなか地域になじめない若いお母さんがいるのでは。

大昔と違って、皆さん車に乗ったりするので、行動範囲が広いと、地域で何かするのではなく、今までの友だちの所に行って遊ぶ人も多いと思う。そういう人を無理やり地域になじませようというのは余計なお世話かなと思うが、60歳過ぎ位の方の時代は、集まりがあってお茶しながら、食事しながら子育ての話をしたりしていた。子どもが小学生の頃は地域の若いお母さん同士でどこかに行っていたけれど、そういったつながりが自然消滅している。どこのお嫁さんだという話を一回聞いてもすぐ忘れてしまう。会話がつかない。

子どもをほめようとか、お母さん向けの何かがあれば参加してくださいというような講座などがあれば話しかけられるが、自分たちで企画して講師も探してチラシも作ってとなると負担になる。

問 11 地域福祉の推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。 について

「他のコミュニティの行事や、運営の仕方等について見学したり参考にしたりしたい」とご回答いただいていたが、こういった事例を参考にできたらというものはあるか。

希望としては、上三川町のいきいきプラザのように、毎日講座があって誰かが来てというのが理想。ただやり方がわからない。支援があると助かる。

他のコミュニティと話したり交流したりする機会はあるか。

あるが、個人と個人で話す機会になる。知っている人がいるからその人に聞いて、どのように行事を行ったか、誰が中心になってるかなどを個人的には聞いている。交流会は、花火大会が中央コミュニティであったので、その時に交流があったくらい。

自分たちの取り組みを安定させてから、他のコミュニティの人と一緒に行っていきたい。花火大会ができるようになれば、それがきっかけで一緒にやろうと言ってくださるものはあるが、色々と中止になって、先が見えない。

団体運営の課題について

LINEができる人はLINEで役員同士の意見交換ができるが、LINEをやっていない人はメールで個別に報告しないとけない。市役所からも役割分担をして、と言われており、投げかけているつもりだが、いつの間にか自分ばかりがやっちゃっている状態。

組織として、事務局ができたのが2年前からで、仲間を増やしたいが今は増やせない。もっと年配で余裕がある人に入ってほしい。

問1 貴団体・事業者について 問2 貴団体・事業者の活動の中で、地域と一緒にいることや、地域に向けて行っていることはありますか について

立ち上げの経緯について

立ち上げは一昨年の10月。これまで第二層の協議体で、地域でできることがないかと話していて、有償ボランティアの事例を知り、近所で助け合えればよいが、なかなかできないし、核家族化も進んでいる状況の中で、あれば便利なのではということで立ち上げた。

ボランティアする人も、せっかく作っても長続きしないと意味がないので、有償ということで少しお金を頂くことで、責任をもってできるし、頼む方も余計な気をつかわず済むということで検討した。

立ち上げ時は国分寺地区2層。

具体的にどういった手助けを受けることが多いのか

農村部よりも都市部、小金井地区など4号線、JR沿線からの依頼が多い。

掃除、片付け、ゴミ出しが一番多い。

買物、外出支援では、一人で買物に行けない方に付き添ったり、退院したばかりの方の注文を受けて買いに行ったりしている。

通院介助が増えてきており、ボランティアの車に乗せられるほか、診察に同席することもある。自治医大の患者さんは病院が大きいので移動も大変で、車いすに乗せて動いた方が安心。

夏場は庭木の剪定、消毒、草刈り草取りも多い。活動内容は2時間以内に終わる軽いこととしてるので、庭全体をやってもらうようなものはシルバー人材センターにお願いしてもらってるが、少し枝が出てしまったとか、毛虫がわいたような簡単なものは対応している。

1時間500円ですぐ終わるものは30分250円、月40件近くになっており、平日1日3軒回ることもある。

移動支援の詳細について

買い物や通院に付き添うというのがメインであれば、交通費はいただいていないということで、届け出は必要ない。事故の心配については、事故があった場合はボランティアが入っている任意保険の補償の範囲(搭乗者保険)が、付き添ってる間に転んでしまうような場合は、社協を通して入ってるボランティア保険の方が適用になる。同意書を本人や家族からもらっている。

会員数21名というのはボランティアの人数なのか、マッチングはどのようにしているのか

地域で回覧を回したところ、ボランティアが男女バランスも良く20名集まって、その人数になる。マッチングは一人でやっている。菅井さんの所に電話が来て、まずは直接見に行く。

あらかじめボランティアに何が得意かなども聞いていて、バランスよく配分していつてもらっている。

件数が多くなってくると、事務所スペースなどが必要になってくる。

問3 貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。 について

自治会との連携の状況は

自治会長もやっているのですねつながりがある。

「うちの方にこういう人いて」「あそこの家が大変そうで」という話があるので、自治会から情報を上げてもらえる。地域の問題、自治会も一緒に手伝ってくれる。

老人クラブとの連携の状況は

老人クラブ代表がメンバーに入ってるので、ビラを配ってくれたり、宣伝してくれたりしている。

和ごむの会	
問4 貴団体・事業者が地域活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。 について	
	<p>活動回数の増加に伴い、活動の事務処理の場があればとのことだが、どういう場が使えるといいか希望は社協の一角、テーブル一つ分のスペースがあって、事務処理の時間が欲しい。月末にその月の記録やお金の件をまとめるため、時間が必要になる。保存する書類が多くなってくるので、ロッカー一つがあればと思う。マッチングの記録ややり方を残して、いつか引き継げるようにしていけるようにしたい。</p>
問5 貴団体・事業者では、地域活動情報をどのように発信していますか。 について	
	<p>ボランティア募集の状況は 世代交代も出てくるので、70 歳以上の人が多いから当たっていかないといけない。ただ男性9名女性 12名、途中でやめた方は2人だけで皆さん続いているので、すぐに新たな募集はなくてもよいかもと思う。もちろん途中から入る人はいてよいが。</p>
	<p>サービスを受けたい方の募集の状況は チラシを配ってもらったりしている。一度使ったことある人が 80 数名で、一度利用すると繰り返し利用される方が多い。いろんな方が利用できるようになるとさらにいい。</p>
問6 活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。 について	
	<p>「隣近所で交流が少ない方で相談依頼に来ていただける」とご回答いただいている詳細な状況 場所に行って作業したり、どういう状況か見にいたりすると、隣近所との交流が無いんだと感じる。「隣近所から草が生えっぱなしで迷惑と言われる」といったような話。 助けてもいいという人は9割くらいが手を挙げるが、助けてほしい人は1割くらいしか手を挙げないという感じがある。人様に迷惑をかけたくないという気持ちがある。本当は隣近所に行っても助けてくれるかもしれないが、それを言えない。 世代間交流も、若い世代との交流が少なくなってしまう。困りごとを相談される方、独居世代でもなく若い世代と住んでいたり、娘夫婦住んでいるが子どもに言えないとか、子どもが独身だったりとか。</p>

和ごむの会	
問7 活動を通じて、地域の中に以下のように見受けられる人や世帯がありますか。 について	
	<p>「80 歳前後の親と、50 歳前後の無職未婚の子が同居している」「建物や敷地内にごみなどを積み上げた状態(いわゆる「ごみ屋敷」)で生活している」の状況</p> <p>高齢になると体も動かなくなってきてたまってきてしまう。意向を聞きながら、全部ではないが一緒に片づける。</p> <p>難しいのは、8050 問題のようなケースだと、一緒に同居している人の私物の判別が難しくお断りすることもある。</p>
	<p>「働いているが、生活に支障があるほど経済的に困っている」の状況</p> <p>シルバー人材センターに頼めるほどのお金がないケースも見られる。</p> <p>一方で、シルバー人材センターと分担して作業することでトータルの経済的負担を減らすなど連携もしている。</p>
	<p>「子どもや高齢者、障がいなどの各福祉分野に該当するサービスなどがいないため、必要な支援を受けることができていない人がいる」の状況</p> <p>介護保険でカバーできない、ヘルパーさんでできない部分など、狭間の部分が多い。</p> <p>ケアマネから、こういった部分は和ごむの会で対応してほしいと紹介いただくこともある。</p>
問8 下野市の保健福祉施策をより充実していくために、重要と考える取り組みはどれですか。 について	
	<p>「悩みや困難を抱える人を見つける」「相談」等についての詳細、具体的にこういった仕組みがあったら良いというものはあるか</p> <p>具体的にはない。たまたま気づいた困りごとを、いろんなところで一緒にやるとか、もうちょっと探せると、声を上げられない9割の方の声も集まるかと思う。</p>
問9 下野市における地域福祉の推進に向けて、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。	
問 10 今後、貴団体・事業者として市や社会福祉協議会と協働でどのようなことに取り組めるとお考えですか。 について	
	<p>具体的に社協にやっていただきたいことはあるか。</p> <p>ボランティア活動の支援としては、補助金を頂いて活動しやすくなったが、来年はもう少し増額してもらえるとありがたい。</p>
問 11 地域福祉の推進についてご意見・ご要望等、ご自由にお書きください。 について	
	<p>「地域拡大に協力し、市内の他の団体とも連携(統合)したい」とご回答いただいているが、そういった話はずでに出ているのか。</p> <p>元々支部をつくりたいという話から他の団体が立ち上がったケースもあり、その時には地域のコミュニティからの補助や立ち上げにあたってのやりがいもあるので他団体としてのほうが良いのではと話した。今でも連携はよくしている。将来的には、地域拡大をして、下野市全体を一緒にやっていけるといいと思っている。</p> <p>料金や考え方について、足並みをそろえられるようはじめてから働きかけており、同じ基準で立ち上がっている</p>

石橋高校	
問1 貴団体・事業者について 問2 貴団体・事業者の活動の中で、地域と一緒にやっていることや、地域に向けてやっていることはありますか について	
	<p>国分寺特別支援学校との交流事業、認知症サポーター養成事業の対象や活動状況は</p> <p>対象は交流事業については福祉委員会と生徒会、他に希望者がいれば参加。</p> <p>認知症サポーター養成事業については福祉委員会中心に希望者がいれば参加。</p> <p>参加した方からは、「学校の通常の授業では学べないことなのでやってよかった」という声があがっているところ。</p>
問3 貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。 について	
	<p>ボランティア団体に学校に来てもらって、といったようなケースは無いが</p> <p>そういったケースはない。</p>
問4 貴団体・事業者が地域活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。 について	
	<p>生徒へのボランティアの紹介ができればよいとお書きいただいているが詳細な状況は</p> <p>生徒の進路指導にもつながるので、下野市在住以外の生徒にもボランティアを紹介できないか。一日で終わるようなボランティアがあれば良い。</p> <p>福祉に関する学びとボランティアのような活動の両方ができると良いが、学校の総合の時間や LHR の時間でできる、単発のことはなかなかない。</p>
	<p>学校生活の中で障がいのある人に接する機会が限られているとお書きいただいているが、例えば障がい者との交流に向けて地域で場づくりをしていただいている Bridge さんと協働での取り組みはどうか。</p> <p>今すぐということではないが、ご連絡いただければ1つの選択肢として検討する。</p>
	<p>今後ボランティアや福祉教育の活動を進めていくにあたり、社協から直接声かけてもらうのが良いか、窓口になる人はいるのか</p> <p>今すぐやりたい人がたくさんいるかどうかかわかるという状況ではなく、担当係としての考えではあるが、そういったお話は大変ありがたい。一方で、参加者が集まらなかったりしたらということも不安。</p> <p>学習部の福祉教育係あてにご連絡いただければ。</p>
問8 下野市の保健福祉施策をより充実していくために、重要と考える取り組みはどれですか。 について	
	<p>「ボランティア団体など住民活動への援助を充実させる」「健康や福祉についての情報提供を充実させる」についての詳細、具体的にこういった仕組みがあったら良いというものはあるか</p> <p>外部団体との繋がりが無く、地域活動や福祉活動について具体的な情報提供が欲しい。</p> <p>以前、精神障がい者の施設でパンを作る活動に参加したことがあり、そういった活動は交流の機会になるので良かった。一方で、社協のチラシなども目にするが、「平日の 10:00 に公民館で」や、「毎週土曜日連続で」といったような活動は、高校生にとっては学業(土曜学習)、部活動がある中で難しい。高校生にも参加できるような取り組みについて情報をいただきたい。</p>

IV. 調査票

第3期下野市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に係る 団体アンケート調査

地域で活動している事業者・団体の皆様におかれましては、日頃から市政及び社会福祉協議会事業に対しご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

このたび、地域福祉をより一層推進するため、「第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画」（令和4～8年度）を策定することとなりました。日頃より地域福祉の推進にご協力頂いている市内団体の皆様の活動に関する現状や課題を把握し、計画策定の基礎資料とさせていただくため、本アンケート調査を実施いたします。

ご多用のところ誠に恐縮でございますが、地域福祉のより一層の発展のために、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年7月

下野市長 広瀬寿雄
下野市社会福祉協議会長 小口 昇



本調査に関する連絡先

下野市社会福祉協議会 地域福祉課
〒329-0414 下野市小金井 789 番地（ゆうゆう館）
TEL 0285-43-1236 FAX 0285-44-5807
メールアドレス：info@shimotsuke-syakyo.or.jp

※団体アンケート調査については、同封の返信用封筒（切手不要）にて、8月6日（金）までにご送付いただくか、上記メールアドレス、FAX 番号までお送りいただきますようお願いいたします。

※メールにてご回答いただける方については、ワード形式のファイルをお送りいたしますので、上記までご連絡ください。

I. 貴団体・事業者のことにについて

問1 貴団体・事業者について、以下の内容をお答えください。

名 称			
代 表 者 名		調査票・記入者名	
職員・会員数	()名	連絡先(携帯等)	
活 動 年 数	()年		
活動や事業の 主 な 内 容			

II. 貴団体・事業者の活動について

問2 貴団体・事業者の活動の中で、地域と一緒にいることや、地域に向けて行っていることはありますか。

問3 貴団体・事業者では、地域活動を行う上で他の団体や機関等との交流や連携、協力関係がありますか。(あてはまるものすべてに○)

※地域活動とは、地域のために行う奉仕的な活動のことです。具体的には、

- ・自治会、子供会、老人クラブ、婦人会活動などへの参加、支援
- ・地域行事への参加、支援
- ・地域の交通安全運動や清掃美化、資源回収活動への参加、支援
- ・地域のNPOやボランティア団体などへの参加、支援
- ・地域の方を対象とする見守り活動への参加、支援
- ・地域の方が集まることのできる場の提供、交流会などの実施 などが挙げられます。

1. 自治会	7. 社会福祉協議会	13. 特別支援学校
2. 民生委員・児童委員	8. ボランティア団体	14. 行政
3. 老人クラブ	9. NPO	15. 保護者会・PTA
4. 婦人会	10. 商工会	16. その他
5. 子ども会	11. 幼稚園・保育園・認定こども園	17. 特にない
6. 福祉施設	12. 小・中学校・高校	

⇒1～16のいずれかに○をつけた方は、具体的な活動内容もご記入をお願いします。

問4 貴団体・事業者が地域活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。

**問5 貴団体・事業者では、地域活動情報をどのように発信していますか。
(あてはまるものすべてに○)**

1. 市の広報紙や窓口での案内を通して
2. 民生委員児童委員を通して
3. 社会福祉協議会を通して
4. 近所の人・知人・友人の口コミ等を通して
5. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオを通して
6. インターネット（ホームページ）を通して
7. インターネット（SNS等）を通して
8. その他（ ）
9. 特に発信していない

Ⅲ. 活動を通して見える地域の状況について

問6 活動を通じて、地域の中で課題に感じることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. あいさつをしない人が多い	8. 隣近所との交流が少ない
2. 災害時、緊急時の協力体制ができていない	9. 世代間の交流が少ない
3. 犯罪の増加	10. 地域の活動が活発でない
4. 交通マナーの乱れ	11. 地域の中で気軽に集まれる場が少ない
5. 道ばたのごみが増えた	12. 障がいのある人に対する理解が不足している
6. 地域での子どもの見守りがなされていない	13. 健康に対する意識が低い
7. 地域の問題や困りごとを隣近所の人と相談できない	14. その他 ()
	15. 特にない

⇒1～14のいずれかに○をつけた方に伺います。

問6でお答えいただいた課題に対して、貴団体・事業者でできることとしてはどのようなことが挙げられますか。

問7 活動を通じて、地域の中に以下のように見受けられる人や世帯がありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 仕事や学校に行かず、概ね6か月以上続けて自宅にひきこもっている人がいる
2. 10代から30代前後で、就学や就労していない人がいる
3. 80歳前後の親と、50歳前後の無職未婚の子が同居している
4. 親の介護と子育てを同時にしている
5. 18歳未満の子どもが家族の世話や介護をしている
6. 建物や敷地内にごみなどを積み上げた状態(いわゆる「ごみ屋敷」)で生活している
7. 働いているが、生活に支障があるほど経済的に困っている
8. 経済的な理由で、衣食住の確保や病院の受診などができていない人がいる
9. 子どもや高齢者、障がいなどの各福祉分野に該当するサービスなどがいないため、必要な支援を受けることができていない人がいる
10. 犯罪や非行を繰り返している人がいる
11. その他お困りの人がいる ()
12. わからない
13. いない

⇒1～11のいずれかに○をつけた方に伺います。

問7でお答えいただいたような課題を抱える人や世帯に対して、必要だと思う支援や取り組みをお書きください。

IV. 今後の活動について

問8 下野市の保健福祉施策をより充実していくために、重要と考える取り組みはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 隣近所など、周囲の理解と協力による、支え合い助け合えるまちづくりをすすめる2. 災害時に支援を必要とする人の把握と支援体制を充実させる3. ボランティア団体など住民活動への援助を充実させる4. 年齢や障がいの有無にかかわらず地域で活動できる機会をつくる5. 世代や属性を超えて相談や交流ができる、場や居場所を地域に整備する6. どんなことでも相談できる、相談支援体制を充実させる7. 悩みや困難を抱える人を見つける仕組みづくりをすすめる8. 健康や福祉についての情報提供を充実させる9. 健康づくりや生きがいづくりが盛んなまちづくりをすすめる10. 生活が困窮した方への援助を充実させる11. 成年後見制度などの権利擁護にかかる取り組みを推進する12. 犯罪をした者が社会に復帰するための支援を推進する13. 交通の利便性の確保をすすめる14. 道路の段差解消など、バリアフリー化をすすめる15. その他 () |
|---|

問9 下野市における地域福祉の推進に向けて、社会福祉協議会で特に取り組んでほしいことは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 福祉に関する総合相談窓口	9. 高齢者の福祉サービス
2. 福祉・ボランティアに関する情報収集・発信	10. 障がい児者の福祉サービス
3. 児童・生徒・市民向けの福祉教育の推進	11. 子育てに関する支援
4. 世代を超えた交流の場づくり・イベントの開催	12. 生活困窮者への支援
5. ボランティア活動支援（育成・充実）	13. 権利擁護 （法人後見事業・日常生活自立支援事業）
6. 災害ボランティアセンターの運営	14. その他（ ）
7. 各種福祉団体やサロンの育成・支援	15. わからない
8. 地区社協の体制整備・支援	

問10 今後、貴団体・事業者として市や社会福祉協議会と協働でどのようなことに取り組めると思いますか。

